

平成 24 年 3 月 18 日発行

創立 70 周年記念特集
2011. 3. 11 東日本大震災特集

会 報

第 4 4 号

社団法人
岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

《写真コーナー》



平成 23 年度総会(5 月 1 日)



第1回生涯研修会(6 月 12 日)



第1回常務理事会(8 月 7 日)



第 2 回生涯研修会(9 月 25 日)



ハーフマラソンボランティア(10月16日)



三団体学術研修会(10月23日)



第3回生涯研修会(11月13日)



ラジソンボランティア(12月25日)

巻頭言

社団法人
岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会
理事長 佐々木 実



平成 23 年を語る時、やはり一番に取り上げなければならないのは東日本大震災であろうと思います。このことについては別に書かせて頂きましたので繰り返しません、これにより大船渡師会の 7 人が津波で家や治療所を流されたり壊されたりしました。一関師会・奥州師会・宮古師会の会員の間でも、住居の一部破損に見舞われた会員がおりました。また、肉親を津波で亡くした会員もおります。それらの方々に心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。

震災は交通網も破壊し、平成 22 年度の理事会が 2 度も延期されるなど、会の活動にも大きな影響を及ぼしました。

そんな中、会員が一致結束し義援金を寄せたり、被災地ボランティアに出かけるなど、「助け合い」の精神が発揮されました。一人の力は小さくても、集まれば大きな力となります。また、全国の業友からも助けの手が伸べられ、業界という組織のありがたさが身に沁みた年でもありました。

次に、我が岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会は、今年で創立 70 周年を迎えました。5 月 1 日に盛大な祝典を企画しておりましたが、それも震災のため中止と致しました。代りにこの会報内に 70 周年のコーナーを設けておりますのでご覧頂ければと思います。

暗い話ばかりして来ましたが、ここで明るい報告をさせていただきます。

会員の村上直人さんが、春の叙勲で黄綬褒章を受けられました。彼は、視覚障害者友好協議会の役員を長く務められ、視覚障害者の福祉増進に努めてこられたことや、地元矢巾町の福祉活動に携わるなどの活動が評価されたものです。

また、副理事長の伊藤庸一さんは全鍼師会より会長賞を授与されました。彼は、長年に亘り岩手県師会における保険取り扱いに尽力され、その取扱高を全国ワーストレベルから平均値まで押し上げた実績が評価されたものです。

お二人とも、誠におめでとうございます。

さて、法人法改正に伴う新法人への移行については、全鍼師会は 4 月 1 日から、公益社団法人となり、より公益性を求められる団体となりました。我が岩手県師会は、5 月の総会で一般社団法人への移行を満場一致で承認し、平成 24 年度内の移行を目指し準備を続けて行くこととなりました。今後とも、会員の皆様の会運営に対する協力を宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、震災に対しいろいろと力を貸してくださいました全鍼師会はじめ全国の業友の皆様、そして岩手県師会会員の皆様に感謝し巻頭言と致します。

平成 24 年こそ良い年でありますように！

目次

巻頭言	理事長 佐々木実	1
目次		2
「第一部」平成23年度活動報告		
総務部報告	総務部 古舘吉弘	3
理事長報告	理事長 佐々木実	7
保険部報告	保険部長 伊藤庸一	8
事業部報告	事業部長 佐藤 明	10
スポーツセラピー担当報告	佐藤 茂	13
無免許対策特別委員会報告	委員長 古水健吾	16
各種ボランティア報告	(1) 佐藤 明 (2) 松下優子	17
東洋療法推進大会 in 福岡報告	理事長 佐々木実	18
地域健康づくり指導者研修会	(1) 松下優子 (2) 佐藤 明	19
各師会活動報告及び会員動向 (各師会)		22
「第二部」創立70周年記念特集		
創立70周年に寄せて	元理事長 石川文治	27
回想	前理事長 下佐征昭	27
創立70周年を迎えて	前副理事長 山本孝一	28
創立70周年を迎えて	前副理事長 小澤信男	29
設立70周年に寄せて	(社福) 県視福協理事長 及川清隆	30
「第三部」東日本大震災特集		
被災者マッサージボランティア体験記	佐藤 茂	31
被災者マッサージボランティア体験記	古舘吉弘	31
被災者マッサージボランティア体験記	舘下正則	33
東日本大震災を体験して	理事長 佐々木実	33
義援金芳名簿		35
避難所ボランティア内訳		36
「第四部」資料編		
創立40周年記念特集号より (抜粋)		
(1) 講演「本会・四十年の歩み」	第七代会長 菅野長治	39
(2) 岩手県鍼灸按師会創立四十周年に思う	第六代会長 山本 近	43
70年間の歴史データ		
(1) 岩手県師会歴代会長一覧		44
(2) 岩手県師会歴代役員名簿		45
(3) 年度別総会開催地一覧		47
(4) 記念式典関係行事一覧		49
(5) 各種表彰者名簿		49
(6) 東鍼連岩手大会開催地一覧		51
(7) 当会の歩み (沿革)		51
編集後記	事業部長 佐藤 明	54
奥付		

「第一部」平成 23 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古舘吉弘

(1) 平成 23 年度庶務日誌報告 (平成 24 年 1 月 31 日現在)

平成 23 年

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校入学式、来賓として佐々木理事長出席。
(ホテル東日本)
- 4 月 20 日 法人県民税納入。
- 4 月 24 日 平成 22 年度通常理事会開催。
本来、3 月 20 日予定が、東日本大震災発生により 4 月 9 日に延期。さらに余震で再延期となり 4 月 24 日となる。今回は、理事会の他に、震災対策委員会会議、第 1 回監査会、第 1 回執行部会議などの 4 つの会議を午後 1 時半から 5 時迄強行スケジュールで行う。
(アイーナ団体活動室 1)
- 5 月 1 日 第 70 回県師会通常総会開催、午前 10 時から午後 1 時。
(岩手労働福祉会館)
- 5 月 14 日 全鍼師会の「東日本大震災被害調査」に答え報告書を送る。
- 5 月 29 日 全鍼師会代議員総会並びに、平成 22 年度第 3 回東鍼連理事会。
～ 30 日 全鍼協同組合総代会、政治連盟総会に佐々木理事長出席。
(千葉幕張アバホテル)
- 6 月 2 日 平成 22 年度事業報告・決算書等、平成 23 年度事業計画・予算書等を県庁に提出し受理される。同日、佐々木理事長と工藤税理士が県庁医療推進課に赴き、一般社団法人移行への協議を行う。
- 6 月 12 日 第 1 回生涯研修会開催。同日、震災対策委員会開催。
(アイーナ 6 階団体活動室)
- 6 月 18 日 全鍼師会震災ボランティア会議に佐々木理事長出席。(盛岡市内)
- 6 月 18 日 「会員の入会及び退会等事務並びに入会金及び会費の納入義務に関する覚書」を全鍼師会と交わす。
- 6 月 19 日 午後 1 時から 5 時迄、第 2 回執行部会議並びに一般社団法人移行に向け、工藤重信税理士を招き説明会を開催。(アイーナミーティングルーム)
- 6 月 25 日 スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会前期 (A 級) に佐藤茂スポーツセラピー担当出席。(千葉県幕張)
- 7 月 10 日 岩手県視覚障害者友好協議会の県総会に佐々木理事長名で祝電を送る。
- 7 月 11 日 全鍼師会法人化 30 周年記念表彰の岩手県師会表彰者名と推薦書を全鍼師会に提出。
- 7 月 22 日 盛岡市より法人市民税減免通知書届く。
- 7 月 29 日 全鍼師会に被災者 8 名の「年会費等減免申請書」を送付。
- 7 月 31 日 全鍼師会主催地域健康づくり指導者研修会 (前期) に会員 5 名参加。

- ～8月1日 (東京新宿区立産業会館)
- 8月7日 第1回常務理事会開催、午前10時から午後1時(労福会館)
- 9月4日 秋田県師会創立70周年記念式典並びに祝賀会に来賓として佐々木理事長出席。(秋田ビューホテル)
- 9月16日 NTT東日本仙台に、岩手県内版電話帳広告の無免許者等のチェック済み資料を送付。
- 9月17日 岩手県立盛岡視覚支援学校100周年記念式典に、佐々木理事長来賓として出席。
- 9月18日 第10回東洋療法推進大会 in 福岡に佐々木理事長出席。
- ～19日 (福岡市ホテルニューオオタニ博多)
- 9月25日 第2回生涯研修会開催。(金ヶ崎町中央生涯教育センター)
- 9月28日 県からの依頼による「特例民法法人震災被害状況調査」に回答し県医療推進課に送る。
- 10月2日 佐藤明副理事長、井口力常務理事が、全国から送られた治療器具物資を、大船渡師会被災者会員に届ける。
- 10月16日 一関国際ハーフマラソンマッサージボランティアに、県役員2名参加。(一関市役所)
- 10月23日 三団体学術研修会開催並びに無免許対策委員会開催。(盛岡視覚支援学校)
- 11月10日 全鍼師会に、受診時定額負担反対署名及び介護予防アンケート岩手県師会分を送る。
- 11月13日 第3回生涯研修会開催。(アイーナ)
- 11月13日 全国都道府県師会長会議に佐々木理事長出席。(千葉県幕張)
- 11月20日 東鍼連理事会に佐々木理事長出席。(仙台市)
- 11月26日 東鍼連保険部長会議に、伊藤保険部長と袖林常務理事出席。
- ～27日 (仙台市ホテル白萩)
- 12月4日 第3回執行部会議開催、午後1時から5時。(アイーナ)
- 12月10日 スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会に、佐藤茂常務理事が出席。
- ～11日 (横浜市)
- 12月24日 IBCラジオのラジソンに、マッサージボランティアとして参加。
- ～25日 (IBC本社ロビー)
- 平成24年
- 1月14日 第2回常務理事会を遠野のホテルと、隣の市民センター会議室を会場に開催。協力、遠野師会。(あえりあ遠野)
- 今後の予定
- 2月11日 全鍼師会主催地域健康づくり指導者研修会(後期)に会員参加予定。
- ～12日 (東京新宿区立産業会館)
- 2月19日 第4回生涯研修会開催予定。(労働福社会館)
- 2月26日 第4回執行部会議開催予定。(アイーナ)
- 3月18日 平成23年度通常理事会開催予定。(労働福社会館)

(2) 県師会情報メール版発行

平成 23 年 4 月 7 日、第 136 号発行から平成 24 年 1 月 18 日、第 190 号まで 54 回発行。11 月 3 日には号外発行。

(3) 平成 23 年度会員動向

項目	月 日	師会名	氏 名
入会者	4 月 1 日	盛 岡	千葉 俊行
		盛 岡	千葉 妙
		遠 野	平賀 純子
	4 月 2 3 日	遠 野	深澤 豊
	5 月 1 日	遠 野	高橋 明広
	1 2 月 1 5 日	宮 古	藤原 正
宮 古		藤原 美幸	
退会者	4 月 1 1 日	盛 岡	鷹木 俊夫
	9 月 4 日	一 関	高橋 清 (死亡)

住所変更等

- 5 月 一関師会 奥友 清氏 (大船渡師会から異動)
- 5 月 大船渡師会 荒熊 稔 (大船渡市内住所異動)
- 6 月 奥州師会 中村 龍哉 (宮城県師会から岩手県師会に異動)
- 7 月 一関師会 鈴木 利奈 (一関市内住所異動)
- 9 月 大船渡師会 千葉 健一 (一関市住所に異動)

(4) 平成 23 年度通常総会報告

第 70 回通常総会が、平成 23 年 5 月 1 日 (日) 午前 10 時より、岩手労働福祉会館において開催された。総務部長古舘が司会を担当し、開会に先立ち資格確認が行われ、出席者 32 名、委任状 45 名、欠席 22 名。以上、77 名の出席で過半数を超えているので総会は成立することを報告した。

また、当初は創立 70 周年記念式典並びに祝賀会を予定していたが、3 月 11 日に東日本大震災が発生したため中止となったことを報告。

開会の前にこのたびの震災で亡くなられた方々に対し黙祷を捧げる。

伊藤庸一副理事長の開会のことばで開会し、佐々木実理事長の挨拶、下佐征昭顧問の挨拶に続き、千葉健一外部監事の挨拶が行われた。

次に、議長の選出に入り、執行部一任の声を受け、舘下正則氏 (一関師会) を指名し、続いて議事録記録人並びに議事録署名人は、執行部が選任することで承認されたので、記録人には井口力氏 (盛岡師会)、署名人には佐々木金男氏 (盛岡師会)、佐藤茂氏 (盛岡師会) の 2 名を指名し委嘱した。

議長が登壇し、会議の円滑な進行への協力要請が行われ審議に入った。

第1号議案の理事長会務報告が行われ、今回はほとんどの時間を割いて震災に関するこれまでの経過報告が行われ、震災直後に、震災対策特別委員会が設置され、3月27日から被災地域でのマッサージボランティアを開始した旨が報告された。最初は、大船渡を中心としていたが、宮古でも行うことができないかということで、後に宮古でも行うことになった。

それから、会員から義援金を集め、それをボランティアの費用その他に使わせていただくことと、引き続きマッサージボランティアに協力してもらえる人を募集した。

また、震災当時は、会員の安否確認に奔走し本当に苦勞したが、皆さんの協力により全員無事の確認が出来たことに感謝したい。

各種会議や大会なども中止されることになり、今年の東鍼連宮城大会も中止となる旨が報告された。

次に、岩手県師会の新法人移行に向けて、4号議案に提案しているので、皆さんの忌憚のない意見や審議を願いたい。全鍼師会は、4月1日より公益社団法人となったなどが報告された。

第2号議案は各部報告が行われ、(1)総務部(2)事業部(学術担当、組織強化担当、スポーツセラピー担当を含む)(3)保険部(4)無免許対策特別委員会報告(5)東鍼連岩手大会報告とそれぞれ報告がおこなわれた。

議長が、1号議案と2号議案を一括で採決を行い、満場一致で承認された。

第3号議案の平成22年度収支計算並びに監査報告が行われ、山本英典会計部長から別紙資料により報告された。また、監事の千葉謙一氏より別紙監査報告書が読み上げられ報告が行われた。ここで、議長より採決が求められ満場一致で承認された。

第4号議案では、新法人設立委員会報告が行われ、下佐委員長から委員会としては一般社団法人になることを答申し、理事会に諮ったところ理事会でも一般社団法人になることを決定した。そこで、佐々木理事長より総会で承認があれば一般社団法人に移行したい旨が提案され、議長が採決を求め満場一致で承認された。

この後、理事長から今後の予定として、定款変更などをおこない来年の理事会と、総会で承認を得て、平成24年度中には申請したい旨が説明された。

第5号議案の平成23年度事業計画案について、佐藤明事業部長から提案され、例年通りの事業を予定しているが、震災の影響で予定が変更されることがあると思うがご理解頂きたいとの説明がなされた。

第6号議案の平成23年度生涯研修会実施計画案について、佐藤明学術担当より別紙資料を基に説明と提案が行われた。

ここで、議長から5号議案と6号議案の採決が求められ、満場一致で承認された。

第7号議案の平成23年度収支予算案について、山本英典会計部長から資料を基に説明と提案が行われた。採決の結果、満場一致で承認された。

第8号議案は、震災対策特別委員会設置と、スポーツセラピー担当者について佐々木理事長より説明が行われ、どちらも満場一致で承認された。

第9号議案の平成24年度通常総会開催についても、執行部の提案通り承認された。

第10号議案のその他では、特に何もなかったことから、これを以って、議長より長時間皆さんの協力の結果無事終了したことに感謝の言葉があり降壇した。

続いて、佐藤明副理事長の閉会の言葉で総会は終了した。

その後、今回は、昼食会ということで昼食をとりながら、震災の時の状況などを出席者一人一人から話してもらった。特に、沿岸部の人からは、津波などで避難するときの状況とか、避難所での生活について生々しい話があり、本当に大変な思いをされたことが分かった。

もっと話を聴きたかったが、時間も限られていたので午後3時に終了した。

なお、今回の総会も余震が多く発生していたので、果たして開催できるかどうか危ぶまれたが、何とか無事開催できてほっとしている。

副理事長の佐藤明さんは何一つ残らず津波にさらわれてしまい避難生活を余儀なくされている中、総会にも出席してくれた。家族も無事とのことでほっとした。

末筆ではあるが、沿岸地域の会員で被災された方々にはお見舞い申し上げるとともに、早く元通りの生活に戻れることを願い報告とする。

理事長会務報告

理事長 佐々木 実

(1) 全鍼師会代議員総会・協同組合総代会・政治連盟総会報告

(5月29日～30日)

- ・全鍼師会が4月1日から公益社団法人となった。それによって全鍼の決定機関は理事会・代議員会となり、これまでの会員総会はなくなった。また、全国都道府県師会長会議は決議機関ではなくなり、それぞれの地域の意見を聴く機関となった。
- ・一般法人東京都師会が全鍼への加入を認められた。
- ・震災義援金が全鍼に1,200万円集まった。被災県に分配したい。
- ・岩手・宮城・福島の3県の著しい被災者に対しては全鍼会費を1年間免除する。
- ・理事選挙では大阪の吉井氏が落選した他は当選。臨時理事会を経て杉田氏が会長に再任された(5期目)。
- ・その他、保険取り扱いが厳しくなっていること、介護保険への参入運動と、あはき法改正運動はなかなか進展しないことなどが報告された。
- ・政治連盟総会では、会員が1千人にも満たないことが報告され、政治活動がこれでは出来ない。会員を増やすための方策を皆も考えてほしいと提案があった。
- ・協同組合総代会では昨年度が赤字であったことが報告され、一層の商品開発に努めることなどが話された。

(2) 全国都道府県師会長会議報告(11月13日)

- ・公益法人東京都師会が久々に出席し(会長が交代)満場の拍手を受ける。
- ・後期高齢者保険取り扱いQ&Aを作って各県に近いうちに配布したい。
- ・来年度の学術研修は、治療院経営ということもカリキュラムに組み入れたい。スポーツセラピー研修会は、人数を絞って中身の濃いものとしたい。
- ・視覚障害局では、来年度から電話相談を設け、視覚障害者へのケアに力を入れたい。
- ・月刊東洋療法に、地方の情報も多く載せてほしいという要望に対し、9割を公益と言われているので難しいが努力する。

- ・保険取り扱いが協会健保ばかりでなく国保などでも厳しくなっている。医師への照会も増えている。医師会で同意書を書かないようにと文書が回っているなどが各県から報告された。
- ・無免許問題では、法改正しかないとの意見が多く出された。
- ・震災があった時に、業界として動くべき、あるいは対処すべきマニュアルを作っている。近いうちに示せると思う。
- ・統合医療についての質問に対し、医師、その他国家免許を持っている者、持っていない者と区別して進めて行くのではないかと思われると杉田会長が答弁。都道府県師会長会議終了後に行われた政治連盟会議では、委員長の杉田氏より、「このままでは無免許・保険取り扱い・介護参入は遅々として進まない。会員が危機感を持って今年度中に超党派議員を集めて総決起大会を開きたい。政治に訴えて行くしかない」と宣言。決起することを満場一致で決議する。

(3) 平成 22 年度第 3 回東鍼連理事会報告 (5 月 29 日)、平成 23 年度理事会報告 (11 月 20 日)

- ・今年度の東鍼連宮城大会と福島交流会とは中止。東鍼連大会は 1 年スライドさせて平成 24 年 7 月 1 日・2 日に仙台市秋保温泉緑水亭にて行うことを承認。
- ・平成 22 年度と 23 年度の事業、会計報告とその承認は、宮城での東鍼連大会代議員総会で行うこととする。
- ・青森県師会から、岩手・宮城・福島各県に 1 万円の見舞金が贈られた。
- ・各県とも、震災の影響で会議や事業遂行に遅れが出た。特に、福島は原発で会員の把握が難しく、100 周年記念式典も中止となった。岩手でも 70 周年記念式典が中止となった。
- ・各県の法人移行状況では、福島だけが公益で、他は一般を目指す（なお山形は欠席で不明）。

以上、簡単に述べましたが、詳しくは県師会情報で報告してありますのでそちらをご覧ください。

保険部報告

保険部長 伊藤庸一

1. 東鍼連保険担当者会議報告

平成 23 年 11 月 26 日(土)、午後 7 時から仙台市のホテル白萩を会場に東北各県から 7 名の担当者が出席し開催されました。本県からは袖林委員と私が出席致しました。

始めに、佐藤一東鍼連保険部会会長から 3 月 11 日の東日本大地震で被災された方々に対してお見舞いの言葉があり議事に入りました。

(1) 平成 22 年度各県保険取扱い実績(単位:万円)

	青森	秋田	岩手	宮城	山形	福島
鍼・灸	229	544	579	4000	5000	—

マッサージ	3000	4268	818	4000	10000	—
合計	3229	4812	1397	8000	15000	

- ・青森、秋田、山形は、昨年とほぼ同額の取扱い。福島は、震災と原発被害の影響により集計できず。岩手も一部の集計報告でありました。
- ・山形は、県単位で団体組織を作り、内部審査をして申請する事により保険者の信頼を得て現在の取扱高になっているとのことでした。
- ・各県とも、マッサージの往療が多くなっていて、それに伴い、医師や患者に保険者からの照会が多くなってきているとのこと。特に、協会けんぽからの照会が増えているようです。
- ・本年は、和歌山、奈良において不正請求が発覚しております。東北でも、過去に青森で、昨年は、岩手でも不正請求が行われ、保険者の怒りは相当なものでありました。
- ・申請にあたっては、保険者サイドの目線で適正な取扱いをお願いしたいと思います。

(2) 全鍼師会への要望、提言

- ・自賠償取扱い用紙、様式を決定。来年の東鍼連宮城大会で答審し全鍼師会に報告。
- ・これまで、自民党のみで政治活動を行ってきたが、これからは、超党派において活動していくよう要望する。
- ・今年度中に行うことにしている決起大会において、保険部として、次の4点を要望するものとする。
 - ① 同意書の撤廃
 - ② 受領委任払いの導入
 - ③ 介護保険事業への参入
 - ④ 医療との併給
- ・保険者との話し合いにおいて、各県バラバラの対応ではなく、統一したマニュアルを作り対応していくことを、全鍼師会に要望する。
- ・これまで、東京で開催されていた全国保険部長会議を復活させて、全国の状況や保険者の対応を理解し、統一した考えで進んでいくために必要との声が多く挙がっている。

2. 東鍼連学術研修会報告

平成23年11月27日(日)、午後1時から4時30分まで仙台市福祉プラザを会場に宮城県師会の会員と各県担当者、一般市民合わせて35名が参加し開催されました。

県からは、戸羽国博先生、袖林委員と私が出席致しました。

講演-1「山形県の保険取扱いについて」。講師は、山形県保険鍼灸マッサージ師会副会長の白田栄二先生。

山形県の、平成13年度の保険取扱い額は1500万円であったが、昨年は約1億5000万円であり、10年で10倍の取扱いが出来るようになったと言う事で、その方法について詳しい内容のお話しがありました。

平成16年2月16日、鍼灸師会と鍼灸マッサージ師会が一緒になり、山形県保険鍼

灸マッサージ師会を立ち上げ、平成21年1月25日、一般社団法人として設立に至ったということで、毎月の取扱い件数、約200件、取扱い額1200万円ということでありました。現在会員数96名、入会金3万円、年会費5000円、手数料5%、パート2名を雇い内部審査をし、請求ミスや不正を厳しくチェックして保険者の信頼を得ているということでありました。ここに至るまでの苦労話や政治力の利用など、多岐にわたっての話であり、他県でも是非窓口を1本化にして、保険者の信頼を得られる組織を作り保険取扱いを進めて欲しいとの話でありました。

講演-2「保険取り扱い基調講演」。講師は、東鍼連保険部会長佐藤一先生。

全国の取扱い額に触れ、各県の事情により差はあるが、医療や柔道整復の取扱いに対し金額は少ないが、その伸び率は高い数値を示している。鍼灸マッサージを利用している人が増えているということであり、このことは、我々の得意分野である未病治、病気に強い体づくりであり、それが医療費の抑制にも繋がっていくことでもあると話された。また、今の医療制度の中にあって、鍼灸マッサージの取扱いは厳しい現状に変わりはないが、混合診療、低額負担の導入、さらにTPPなど多くの問題に対応していかなければならない。これから一致団結して取り組んでいかななくてはならないと強く訴えられました。

講演-3「放射能・私たちの体と健康」。坂総合病院内科医師矢崎とも子先生。

福島原発事故による放射能汚染が人体に与える影響を数値で表し、細かく解説していただきました。特に、子供は大人の10倍以上の影響を受けやすいので、注意が必要との話でありました。色も臭いも痛みもなく見えないため、外部被曝による影響も大きいですが、呼吸、食べ物、傷などから受ける内部被曝にももっと注意をしていく必要があるとのことであり、日常生活の中で毎日受けている放射能から、出来る限り健康被害を少なくしていくために努力していかなければならないとのことでありました。

市民開放講座ということで、一般市民の参加もあり質問も多く出て、関心の高さがうかがえる内容でありました。

事業部報告

事業部長兼学術担当 佐藤 明

(1) 第1回生涯研修会の報告

平成23年6月12日、今年度第1回目の生涯研修会がアイーナで開催されました。岩手県師会主催の生涯研修会として通算7回目となるものです。会員34名、付添い3名、一般免許者3名、学生8名の合計48名という多数の参加者がありました。

講演の1題目は、伊藤庸一保険部長による、「各種保険取り扱いの実務と対応」として、(1) 保険取り扱い状況 (2) 施術料金について (3) 申請書記入について (4) 療養費の支給基準について、配布された資料を基に説明をいただきました。

講演の2題目は、佐々木実理事長による、「鍼灸マッサージ治療院経営のノウハウ」でありました。要点として、(1) 場所 (2) 広告 (3) 設備 (4) 技術 (5) 自己管理 (6) 経営目的などについて、理事長の多年にわたる治療院経営の経験と研究をもとに、詳しくお話しをいただきました。

講演の3題目は、佐藤茂常務理事による、「頸肩腕症候群と筋硬度の考察」として、脳血管障害患者の肩こりについての研究発表でした。東鍼連宮城大会の学術発表の予行演習を兼ねていましたが、大会が中止となってしまい来年7月に持ち越しとなりました。

東日本大震災により、社会的にも有形無形の影響が続く状況下での研修会開催にあたり、佐々木理事長を中心にその準備と運営を全て取り組んでいただきました。研修会担当者として、その会務を遂行することが出来ず、当日参加するのが精一杯でありました。この場をお借りして、会員の皆様、役員の方々には改めておわびと御礼を申し上げます。

(2) 第2回生涯研修会の報告

9月25日、金ヶ崎町中央生涯教育研修センターで開催された研修会におきましては、全体で30名の方が参加してくださいました。誠にありがとうございます。特に、地元奥州師会の方々には準備等のお世話をしていただき、お陰でスムーズに研修会を運営することができました。この場をお借りし感謝と御礼を申し上げます。

さて、心肺蘇生法とAED取扱い講習では、やさしい消防署員により、和やかに実技講習を受けることができました。4班に分かれて一人ずつ練習しました。過去に講習を受けた人も半数いましたが、忘れていたこともあり、とても良い復習となりました。認識を新たにしたのは、AEDは心臓を止める器械だということを知りました。それから、できれば2~3年ごとに講習を受けることが望ましいとのことでした。

午後の部に入り、米澤真奈美さんの海外ボランティア体験とその後の活動について、お話をいただきました。アフリカはタンザニア滞在中の日常活動や文化について、また、民族衣装や楽器カリンバも紹介いただき、そして、キリマンジャロコーヒーの産地直送ものの販売もしていただきました。その中で、ボランティアや地球環境など、自分の意識を変えればできることや、一人でもできることがあるなど、自然との共生と調和という観点を気づかせていただくことができました。

佐々木実理事長による、パーキンソン病の治療と実技では、16年間に及ぶ研究の成果をお話しいただきました。進行を止めた症例や改善している症例等は、現代医学にも勝るものと思います。その経験の蓄積を惜しげもなく公開していただいたことは、正しく、検校（けんぎょう）精神といえるものであります。

講師を務めていただいた、会員の米澤真奈美さん、佐々木実さん二名による講演は、ほかでは聞くことが出来ないとても貴重なものです。この場をお借りし、改めて感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

会の中には、まだまだお宝が眠っているのではないかと思います。来年度以降も生涯研修会の計画にあたり、学術研究発表等をしていただける方を募りたいと考えていますので、何卒ご協力いただくようお願い申し上げます。

(3) 三団体学術生涯研修会報告

岩手県視覚障害者福祉協会、県立盲学校同窓会、そして岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の三団体共催による「学術生涯研修会」が10月23日、岩手県立盛岡視覚支援学校において当会会員32名と関係者を含む約40名の方が参加され開催されました。

午前 9 時 30 分から開講式が行われ、三団体の代表と学校長から挨拶をいただきました。続いて、講演に移りまして、一つ目は、講演「経穴人形を使っての世界統一経穴の学習」ということで、講師には、高橋弘先生（視覚支援学校教師）をお願いしました。原寸大の人形二体を触りながら、新しく加えられた 7 つの経穴の確認をすることができました。

次に、講演の二題目は、「微弱電流を用いての治療法」というもので、講師は植木均也先生（栃木県鍼灸按摩マッサージ師会副会長）でありました。先生によるこの治療法を用いた 6 年間に及ぶ臨床研究の成果をお話しいただき、とても興味深く聞くことができました。特に今回は、（株）カナケンさんによるご協力もいただき、植木先生をご紹介してもらい実現できました。

植木先生の治療方式というのは、バイオカナックスを合計 4 台そろえて、2 台のベッドで臨床に当たり、二人同時に治療をしているそうです。この方式の特長は、急性症状やスポーツ障害などの痛みの回復が早く、多くの臨床成績を上げているということでありました。

昼食をはさみ、午後からはその実技を指導していただきました。器械と端子のセッティング方法や経穴の選び方を教えていただき、特に、奇経療法で用いる八総穴の組み合わせを応用した方式を紹介いただきました。2 台のベッドで 5 名の方にモデル患者になってもらい、治療の前後の症状や、患部の触覚所見を全員で触察し、変化を確認するなどとても良い勉強が出来たと思います。

モデルをされた方は、通電感覚は全くないそうで、時間とともに多少のだるさを感じたり、手足が温まるとか治療後の硬さやむくみが取れて軟らかくなるなどの実感があつた模様です。

そんな訳で、今回の研修では、WHO が新たに認定した 7 つの新しい経穴が正経十二経絡に追加されたことや、微弱電流通電法が、従来の低周波やパルス、さらには SSP などの器械とは全く違うということを知り、認識を新たにすることが出来ました。私自身は、各種電気器具を治療には使用していなかったため、あまり関心を持たずにいたのですが、もし、今回参加していなければ、この優れた治療方式を知らないままに過ごしていたことでしょう。そう考えると、参加して本当に良かったと思いました。

そして、今回、特筆すべきことがあります。それは、東京都師会から特別聴講された小林貞仁さんが参加されたことでした。全国的には、まだあまりやられていない、「微弱電流を用いての治療法」についての講演があることを知り、どうしても勉強したいと駆けつけたのでした。関係者は一様に、この熱意には頭が下がるということで、大いに感銘を受けたのでありました。

最初から最後まで、教える者と教わる者との活気と熱意のあふれる研修になり、この次は、皆さんもぜひ参加してほしいと思った大変素晴らしい学術研修会であったと思いました。

(4) 第 3 回生涯研修会の報告

数日前までの寒さも緩んだ11月13日、アイーナ6階団体活動室で開催された研修会は、学生6名、教員1名、一般2名を含め、全体で35名の参加がありました。今回も各師会長はじめ会員の皆様にはご協力いただき、感謝と御礼を申し上げます。

今年度本会主催による第3回生涯研修会は、全鍼師会学術委員、日本体育協会公認アスレチックトレーナーとしてもご活躍中の朝日山一男先生（神奈川県師会）をお招きしての講演と実技についてご指導をいただきました。

午前の部は、「介護予防事業の実際と経絡テスト経絡ストレッチ」でありました。経絡テスト経絡ストレッチ誕生の秘話から今日までのいきさつ、その活用と効用はもちろん、応用編にいたるまで、余すことなくお話をいただき時間が足りない位でありました。

先生には、盛岡駅にご到着後、アイーナに直行していただき、息つく暇もなくご講演に入っていただきました。実戦用の内容に重点をおき、自らの体験談を交えながらの語りと体操指導には、やはり説得力がありました。

午後の部は、「アスレチックトレーナーの役割と鍼灸マッサージ」というテーマでお話をいただきました。これは、スポーツ現場での多くの実践経験が、競技者にとって有形無形の力になっていることがよく理解できました。特に、若い学生には大いに関心の高い分野ということもあり、好評でありました。

今回興味を引いたのは、先生の使っていたセイリン・パイオネックスという円皮針を用いてのツボ療法には即効性があり、臨床でも活用できるので、今後は、これを使った治療法の研修会も企画したいと考えています。

研修会終了後は、朝日山先生ご夫妻と駅中の飲食店において、採れたて遠野産ホップで作られたビールで乾杯し、歓待と慰労の一時を過ごし懇談を深めることが出来ました。このビールは、地元産のホップの香りと苦みも爽やかでとてもおいしいものでした。

後日談ですが、ご夫妻は、翌日は平泉毛越寺と狢鼻溪、そして盛岡城址を巡り、再びくだんのビールを飲み、岩手を堪能して帰宅されたそうであります。

スポーツセラピー担当報告

スポーツセラピー担当 佐藤 茂

(1) A級スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会（前期）

6月の25日～26日に幕張にて開催されたスポーツ講習会に参加いたしました。現地は思っていたほど暑くもなく、レディー・ガガのコンサートがあったためでしょう、ダフ屋がウロウロとしていました。私は気が付かなかったのですが、ところどころに液状化のために歩道などに段差ができあがっていたりしていたそうです。

会場に入ると、顔見知りになった全国の会員らと再会し、岩手から来た私を見かけると話題はやはり、東日本大震災のことになります。知っている顔の福島師会の先生（その方は郡山の人）がおられたので、福島の様子を尋ねてみると「大丈夫だけどこの先どうなるか分からない」とのこと。やはり原発の影響は深刻です。

さて、今回からA級を目指すべく講習を受けて来ましたが、内容はといたしますと、実技は特になく、鍼灸マッサージには直接的には関係のない、しかし、トレーナーなら知っとくべき内容です。

第1部は東海大学専任教授で“スポーツメンタルトレーニング指導士”である高妻容一先生の『スポーツ心理学』。

まずは、いきなり隣同士でジャンケンをさせ、このジャンケンという小さな勝負に勝って喜ぶか、負けて悔しがるか、あるいは何とも思わないかを訊いてきました。伸びるアスリートは喜ぶ・悔しがるかであるとのこと。

今回の講習会で、最も面白く為になった講義で、“メンタルトレーニング”とは何かというと、心理的スキルのトレーニングで、経験的なものではなく科学によって確立されており、コツコツとトレーニングを積み上げることで効果を発揮するものです。なお、日本では30年遅れているそうです。“心技体”という言葉がありますが、この“心”にスポーツメンタルトレーニング指導士が関わり、“技”はコーチ、“体”がトレーナーや我々、鍼灸マッサージ師や柔整、PTなどが関わることとなります。

ここで、この報告書をお読みの皆さんにもご自身の心理チェックしてもらおうと思います。できればご自分の顔の表情を誰かに見てもらいながらやってみてください。

① あなたの夢を語ってください。

② 宝くじに3億円、当たったらどうするか語ってください。

いかがでしたでしょうか？①は内発的モチベーションといい、②が外発的モチベーションとありますが、②より①が強い人ほど、つまり顔を輝かし語れる人ほど伸びる人になります。ちなみに私は②の方が強かった…。

第2部は聖徳大学人間栄養学部人間栄養学科助教授の本国子先生による『スポーツ栄養』。まあ、栄養学の話はいつ、誰が語っても同じような内容で、今回も例外ではありませんでした。皆さんに報告するとすれば、厚労省と農林水産省が作成した食事バランスガイドにある「何を」「どれだけ」食べればよいのか一目で分かるようにしたコマの図がありますが、乳製品と果物1日に少量でよいのですが、アスリートなら毎食とるよう指導すべきだということです。

第3部は『指導論』。ロサンゼルス・ソウル・バルセロナと3回のオリンピックに出場し、現在は東海大学体育学部教授の高野進先生による特別講演。先生の経験や、末續慎吾を育てた指導方法、走運動の研究をし、「4の字1の字」という走りの型などは、陸上選手を見ている指導者なら参考になったかもしれません。

この後、懇親会があり、全国の会員たちと酒を酌み交わしながら話に花を咲かすわけですが、このような講習会は懇親会のためにあるといってもいいでしょう。

県内にいても分からないことなどを知ることができますので、今後、このような講習会はスポーツに限らず、他にもあるでしょうから講習会に出席される方は、自分のためになりますので、参加されることを勧めます。やはり文化が違うからでしょうか、特に西日本の方々の話はおもしろいですね。

翌日、第4部早稲田大学スポーツ科学学術院の菊池真也先生の『トレーニング理論』。

コンディショニングはトレーニングそのものであり、身体的準備を整えること。それによって、パフォーマンスを発揮する訳ですが、“Movement”(機能的動作・安定性)という確かな土台を築いた上で“Fitness”(体力)をつけ、“Skill”(競技スキル)を高める。これらを手に入れるためにトレーニングをするのであって、ピークパフォーマンスで試合に出場させるために、目標と優先順位の設定、年間トレーニング計画などを聴きました。

最後はJOC専任メディカルスタッフ、嵯峨野淳先生による『アスレティックリハビリテーション』についてです。ADLレベルのリハビリはメディカルリハビリテーションですが、しかし、アスリートにとっては競技に耐えられるまでに回復させなくてはなりません、尚且つ負傷する前以上の状態にさせるためのリハビリがアスレティックリハビリテーションであり、このことについて講義を受けました。

以上、今年もスポーツ関係の講習に参加し、12月にも行って参りますので、続きはまた来年です。

(2) A級スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会（後期）

12月10・11日、横浜にて、スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会に参加しました。2年間続いていた講習会もこれで最後です。

現地は岩手よりも暖かく過ごしやすかったです。せっかくだったので、一度は訪れてみたかった江の島まで足を運んでみました。

ご存知の方も多いでしょうが、江の島には“杉山和一”が願をかけ弁財天から“管鍼法”を授かった島です。今日、日本においては管鍼術が主流であり、はり師の聖地とも言える島ではないでしょうか。ここには、杉山和一の眠る墓もあり、他に石に躓き転んでしまうことで管鍼法を思いつくきっかけとなった石、“福石”があります。この福石の前で思わず手を合わせてしまいました。このとき、お参りに来ていたと思われる女性の目が、やけに冷やかにこちらを見ている。あとで知ったことですが、この福石は恋愛のパワースポットだとか。

「この男、よっぽどモテたいのか？」と思われたに違いない…。

さて、本題に戻り、まず最初の講習は『競技別・症例別アプローチ』で、講師はラグビー日本代表のトレーナーの木村通宏先生。年間帯同実績やコンディショニングサポート体制、セルフコンディショニングの啓蒙、選手のケアの流れなどについて説明を受けて、最後に、実際に使用した物理療法機器を用いての実技をいたしました。なお、実技のモデルは私が務めさせていただきました。一カ月ほど前からハムスト筋を痛めていたのですが、この機械で治療してもらったところ症状の寛解がみられました。

これは高周波温熱治療器(電気で温める)で、本当に今の技術は進んでいるなど思いますが。この機器のメーカー名は(株)インディバ・ジャパンで興味のある方はアドレスをのせますので、インターネットで検索してください。? <http://www.indibaactiv.jp>

第2部は陸上の日本選手団のトレーナーである、曾我武史先生による『スポーツマッサージ』。スポーツマッサージは痛み、違和感、怪我の治癒促進などのためコンディショニングから入り、症状を改善させること。セルフコンディショニングや機能改善の動きなどの指導で疲労回復させ、パフォーマンスのサポートをします。

スポーツマッサージの落とし穴は、選手とのコミュニケーションを疎かにし、何を求められているのか明確にしないことです。何ととっても相手は身体に敏感であり、痛みは取ってもらいたけど、緩くしてほしいなどの要求があることもあるので、選手の要望に耳を傾けることが必要となりそうです。

マッサージ師ができることは、患部がどうなっているか、患部外はどうなっているかの説明と情報提供をし、動かし方に問題がある場合、修正するように指導することなどといった内容でした。

最後に、下肢のマッサージの実技の見せてもらいました。手の動きは速く、筋を解しながら筋繊維に沿って手を動かすマッサージでした。見た感じは、疲れそうなマッサージで、本人曰く、上腕二頭筋がパンパンになるそうです。

翌日、第3部はPTにして、日体協公認アスレティックトレーナーの小泉圭介先生による『アスレティックリハビリテーション』。アスレティックリハビリテーションを略してアスリハといいます。掻い摘んでいうと、競技復帰させるための運動療法のことです。今話題の“コア”についてのことや、そのコアのトレーニングについて参加者全員で体験しました。なかなか、きついトレーニングです。

それにしても、これは一度だけの講習では分からない程の、中身の濃い内容でした。

最後は、今年2011年の韓国のテグで行われた世界陸上にも帯同した岩本広明先生による『スポーツ鍼灸』。スポーツ鍼灸においても、選手の動きを理解するとともに、鍼灸に何を求めているかを把握して施術することを、常に念頭に置くことが重要であるといった内容で、実技ではハムストの評価や治療についての実演でした。

この講習会を終えてA級の認定をされれば、全鍼から各県の体育協会に名簿を送るそうです。それによって何の変化があるかは分かりませんが、岩手国体は開催するつもりのようなので、今後もスポーツセラピーには何らかの活動をしようと思います。

2年の間、この講習会に参加できたのも皆さんの応援があればこそです。ありがとうございました。

無免許対策特別委員会報告

委員長 古水健吾

10月23日の三団体研修会の昼休みに行われた無免許対策委員会報告です。

会議の要点を次に報告します。

(1) 各師会の情報交換

- ・一関・・・10月16日に国際ハーフマラソンで無免許啓発チラシを配布した。
- ・大船渡・・・整体業者と思われるが、新聞広告掲載の表現に国家資格等、紛らわしい表現があると思われたので保健所に申し入れた。
- ・盛岡、奥州・・・特になし。
- ・県師会・・・県師会のホームページがリニューアルされた。

12月24日、25日にIBCのラジソンで、マッサージ奉仕を行う。

(2) 特別委員会の今後の取り組みとして

今後も下記のような活動を通し、無免許啓発につとめていく。

1. 無免許治療の啓発ポスターを院内掲示する。
2. 無免許治療啓発チラシを患者に配布する。
3. 無免許啓発チラシを行事等で配布する。

各種ボランティア報告

(1) 一関国際ハーフマラソンボランティア報告

事業部長 佐藤 明

10月16日(日)、第30回一関国際ハーフマラソン大会は、過去最多の1,802人が出場し開催されました。数日來の雨が心配されましたが、気温や天候も絶好のコンディションとなり、地元一関師会の会員をはじめ一関市視覚障がい者福祉協会会員や県師会役員として、伊藤庸一、佐藤明、佐藤茂の3名を含め12名の参加でボランティアを実施することができました。この活動は、県師会として「あはきの日記念事業」協賛として昨年から行われているものでしたが、実施主体の一関師会では第2回から選手へのマッサージボランティアを行っており、今年で29回目となるそうです。

午前10時30分頃から午後1時30分過ぎまで実施し130人を施術しました。また、無免許マッサージ対策の啓発チラシを100枚配布しました。

私の担当した選手は、東京や神奈川県からの市民ランナー、お隣の宮城県や福島県の大学生、県内から参加された3名と、トンガ出身の男性を含め10名ほどをマッサージしました。手を休めるヒマもないほど盛況で、係員による整理券番号を連呼する声が飛び、空きベッドに次々に誘導された選手をひたすら揉みました。会話をしてみると、中にはほとんど練習する間もなく参加し、10kmを完走できたと喜ぶ女子学生や、自身の記録更新が達成できた人、健康づくりが目的の人など様々でした。

平成28年に行われる予定の「岩手国体」ですが、新聞によりますと、年内中に開催するか否かの最終判断を県として下すという報道がありました。そのような状況を踏まえつつ、県師会としてスポーツボランティアを継続しながら、スポーツトレーナー育成やスポーツセラピーの拡充を進めて行きたいと考えており、その方針に変わりはありません。

長年にわたる一関師会の活動に敬意を表したいと思ひますし、ご協力いただいた皆さんにはご苦勞様でした。今後も一関師会と連携を図りながら、県師会役員はもとより県内各師会の会員の方にも呼びかけ、協力体制を強める必要性を感じました。

結びになりますが、今回参加させていただき感じたことは、一関市の職員や住民がボランティアで参加し、それを継続している地域の連帯の強さが感じられ、活力ある地域づくりとしてとても素晴らしいイベントだと思ひました。

(2) IBCラジソンボランティア報告

常務理事 松下優子

今年で2回目の参加となりました。昨年、会員から『無免許者(整体師)がマッサージを行うという話を、ラジオを通して何度もアナウンスされている、ボランティアの名を借りた売名行為ではないか』という指摘を受け、それでは、我々もただ指をくわえて見ている訳にはいかない、ということでラジソンに参加することになりました。

昨年は、急だったので皆さんには呼びかけず、有志が募金を持参し参加しました。4人で21名ほど施術しました。今年は13名の協力があり、2日間に渡りボランティアをしました。施術人数は57名でした。

募金は、11月13日の研修会の時に皆さんから募り、お預かりしていた6,391円の募金を届けました。

昨年と違い、IBC本社ロビーの雰囲気もなんとなく静かだったように思われました。

施術者が多い割には、お客さんが少なく、手持ち無沙汰でした。今後のかかわり方として、各地の「愛の泉」等でボランティアをしてはどうかという意見もありましたので、役員会等で検討したいと思います。

貴重なクリスマスの日にご協力くださった皆さんありがとうございました。

今年協力下さった方々を記します。

大澤睦子、盛内克則、優子夫人、松下優子、佐々木実、由美夫人、佐々木ひで子、立花梅子、佐藤明、古舘吉弘、火石イク子（会員外）、中渡智彦、佐藤茂（敬称略）。

東洋療法推進大会 in 福岡参加報告

理事長 佐々木 実

9月18日・19日の両日、福岡県博多の「ホテルニューオータニ博多」で、第10回東洋療法推進大会が行われ出席して参りました。今年は、岩手県師会からは私だけの出席となりました。

今年の大会は、法人認可30周年・公益法人許可というめでたさを背負って開催され、800名を超える参加者となりました。テーマは「がんばろう！日本」。

杉田会長の挨拶の後、各県師会表彰者に賞状と記念品が贈られました。我が会からは副理事長の伊藤庸一さんが表彰されました。

オープニングの記念講演では、漫才師島田洋七氏の「笑顔でいきんしゃい！」と題したトークに腹の皮が振れるほど笑わせてもらいました。

次に、私が出席した分科会の報告を簡単に致します。

スパ事業委員会主催の「温泉とはり、きゅうマッサージで健康づくり」。
講師は札幌国際大学松田忠徳教授。

これは昨年の続編というべきものでしたが、目新しいものはなく、ぬるめの温泉にゆっくり浸かり、上がった後は冷たい飲み物は避けるという基本理念を、科学的・医学的に説明してくれました。

次は、保険推進委員会主催の「保険取扱の現状と課題」。

これは、全国から保険取り扱いが非常に厳しくなっている旨が報告されました。中でも、協会健保を中心に医師に、「口頭同意日に間違いはないか、カルテに記載してあるか」、「初診にもかかわらず同意書を出しているのはどういう訳か」、「外科、整形外科等の専門分野でもないのに同意書を出した理由」等の質問。また、医師会の中には、「同意を出すことは妨げないが、出した以上は何かあった時に責任を取らなければならない」旨の文書が回ったりと、保険取り扱いの厳しさが各県師会から寄せられました。

それに対し本部では、「これから検討を重ね、対処を考えたい」との解答でした。川村新保険局長の手腕に期待しましょう。

夕食を兼ねての懇親会では、冒頭震災で大きな被害を受けた岩手・宮城・福島の前会長から一言ということで、私も全国の業友からの義援金へのお礼と震災の状況・県師会としての対処、そして、現在震災を乗り越えて頑張っている旨を話させて頂きました。

会場からは暖かい拍手を頂きました。

第2日目は、普及事業委員会主催の「災害ケア」～鍼灸マッサージ師にできること～講師は中山かおり氏。

これは、全鍼からの震災ボランティア報告の後、PTSDの人に対する接し方などを中山先生が話されました。とにかく「そっと寄り添う」ということが基本かなと思いました。この分科会では、被災地ボランティアの全鍼の取り組みを中心に発表がありましたが、発生後間もなくボランティアを実施した地元師会の代表者にも意見や提言をしてもらった方が良いのではと思いました。全鍼の発表に、地元師会として温度差を感じたからです。被害状況ばかりが取り上げられ、直後の避難所の状況やそこでボランティアをした様子などが抜けていたと思います。

スポーツ事業委員会主催の「スポーツと鍼灸マッサージ」。

これは、事業局長の笹川先生と、11月13日に岩手県師会で研修会をお願いしている朝日山先生が講師でした。内容は、スポーツトレーナーとしての役割（昨年県師会で笹川先生が話されたこととほぼ同じ）、それから治療院経営にどう繋げるかなどの話しでした。時間や金銭の投資が多いので、それをどう経営に見返りさせるかが鍵のようです。

大会は、2日間とも予定通り進められ、滞りなく12時半頃に終了しました。大会中は、台風15号が接近しており、雨降りと天気には恵まれませんでした。全国の業友の熱気を感じるには余りある大会でした。来年は、10月14日・15日に静岡県で行われます。

帰りは台風15号に追いかけられ、はらはらしながら無事時間通り帰宅することが出来ました。9月に台風銀座九州での開催というのは冒険的でもありましたが、予定通り参加帰宅出来て良かったと思っています。

第5回地域健康づくり指導者研修会報告（前期）

（1）介護予防指導者研修会に参加して

盛岡師会 松下 優子

真夏とは思えないような、涼しい、正に勉強には持ってこいの東京でした。

今回は介護予防と、ほかに震災での医療ボランティアをなさった、東芝病院医師、増島先生の講演と笹川先生のボランティアの報告がありました。

本題の介護予防の方は、昨年、研修を受けた内容を、更に深く身近に学んで来れたと思います。なにせ、私自身介護予防予備群なのですから。研修は、初心者と上級者に別れて行いました。私は初心者コースでした。それぞれ25人くらいだったので、実技の研修にはちょうど良い人数でした。

ここでは、特に印象に残ったことについて触れたいと思います。

まず、5人ずつチームをつくり体力測定の練習をしました。年寄り役、介助、計測係りを決め、それぞれを体験してみました。

最大歩行という、スピードを出して歩く項目があるのですが、肥満さんという、名前とは正反対のマッジョな方が年寄り役をした時、私が介助についたのですが、その方の歩く速度がとても速く、介助の私がついて行けず、皆さんに笑われてしまいました。実

際元気な年寄りは沢山いますから往々にしてあることだと思います。口で言うほど簡単ではありませんでした。

実践に際しては、持病を持っている方、ROMの縮小等、年寄り特有の性質も見極めなければなりません。それから、私達視覚障害者にとって、計測の工夫を考えなければなりません。まだまだ課題はあります。

翌日は、この研修の成果をどのように発展させられるかということをお話ししました。

私達の班は、昨年講師をお願いした、遠野出身の小川先生を中心とした東北参加者チームで、名称は「kitatama」（北の魂）といます。中々話し合いが盛り上がりませんが、
「5年後には地域支援事業へ参入！」という目標を持ち、「具体的な活動をしよう！」ということになりました。

最後に、各チームのマスタープランの発表会を行いました。他県は具体性がなく、まとまりのないものでした。我が東北チームは、小川先生の指導がよかったので、一番できがよかったです。

この研修を踏まえ、少しでも地域の役に立ち、それを仕事に繋げていけたらと思っています。あまり気負わずトボトボと進みたいものです。

(2) 地域健康づくり指導者研修会に参加して

大船渡師会 佐藤 明

平成23年7月31日（日）の午後1時～8月1日（月）の12時30分まで、新宿区立産業会館において開催され、本県からは会員5名の参加により研修会に取り組んで来ました。全鍼師会の役員を含め全参加者は約50名ほどでありました。

研修会の目的とねらいは、地域の健康づくりの担い手として、介護予防事業への参入を主たる目標としながら、その方法や技術の習得について研修を深めるということでありました。今回は、前段に、東日本大震災発生後のボランティア活動の実践報告を組み入れたものとなりました。

初めに、朝日山一男先生から、全鍼師会の震災ボランティア状況報告と、神奈川県師会の実践報告があり、岩手、宮城に3回ボランティアに入った報告がありました。特に、本研修会の1週間前にも、陸前高田市に10数名で入り、支援活動を展開されたということが話されました。

次の事例報告としては、スポーツ医学が専門の医師で、東芝病院スポーツ整形外科部長の職にある、増島篤先生による講演「災害時の対応と医療ボランティア」を拝聴しました。震災直後の大船渡市に支援に入った様子と体験を語っていただきました。先生は、日体協スポーツドクター、JOC、プロ野球、レスリング、バスケットボール等の関係団体で医事・医科学委員を務めるなど、整形外科の医師としてスポーツ最前線で活躍されている方でおられました。その経験と被災地の医療支援とはリンクしないように見えて、実は繋がっていて、医師としての能力を最大限に要求される場であるということをお話されていました。

その後、笹川隆人事業局長より被災地ボランティア体験、被災体験者として古水健吾さんから事例発表がありました。締めくくりは、災害時のボランティア活動において、現地との情報交換を密にした対応と体制の作り方や心構え、被災地での行動原則等につ

いて、朝日山、増島、笹川、古水の4氏の方による、シンポジウム形式での討論会がありまして、とても参考になり有意義な企画だったと感じました。

さて、3年前にも同じ研修に参加した私ですが、今回はステップアップコースの受講となりました。

講師担当は、朝日山一男、小川眞悟、長嶺芳文、藤林克仁各先生ほかによる、転倒骨折予防教室あるいは介護予防教室の実際時に役立つ内容でありまして、より実践向けの指導をしていただきました。

朝日山一男先生による、おなじみの経絡テストとストレッチの手順を練習した後、3人チームで交互に指導者役をやる練習を一通りやりました。特に重要なことは、やはりリスク管理であり教室参加者の身体状況及び体調把握をした上で、事前に想定しておくべき転倒骨折や高血圧リスクの管理をして、体操や運動指導などを行うことが最も大切だということでもあります。

翌日は、小川眞悟先生による「爪もみ、ピッ！」というものの指導をしていただきました。これは、教室を開くときにとても喜ばれるそうです。足の指の爪甲部を拇指・示指でつまむ手技をしながら、ピッと言葉にしてから離すということから始まり、指もみ、指の曲げ伸ばし、足指の指間に手の指を入れての握手などをします。次に足の裏の指圧、足首回し、下腿の内側・後側・外側という順に指圧します。そして、大腿部のマッサージをして、仕上げに求心性に軽擦して終了です。同様に反対側も行いますが、ここで大事なことは、片方を終えた後、左右の下腿や足部の血色を確認させると、左右の肌色に必ず違いがありますので、その点を強調してあげることが肝心のポイントです。続いて、手指から始まる上肢のツボ押しやマッサージ法を指導しながら進めます。

この一連のマッサージ法の指導中に、和やかに会話しながら、経穴についての話や蘊蓄を交えたりすると、ツボの名前も覚えやすくなり、東洋医学への関心も増して大いに説得力が高まる利点があるということでありました。この研修でも、手順を練習した後、3人チームで交互に指導者役をやる練習を一通りやることになりましたが、指導者役をするにも練習が必要と思いました。この部分が、実践の場においては重要だと思いますし、今後の課題になると考えます。

それから、最後の研修となりますが、地域支援事業についてのチーム討論会が行われました。青森の一名を含め、主に岩手からの参加者だけでしたので、おのずから岩手、それも盛岡市を想定しての今後の目標と計画づくりの話し合いになってしまいました。大きなポイントは、5年後を目標に据えて、介護予防事業への参入を目指す。その為に、研修会参加メンバーを中核とした研究会を発足する。そして、仲間を増やし実践研修を深める。などを概略とする結論に至りました。

目標設定した現時点においては、5年後の介護予防事業への参入というのは、千里の道にも値するような感じがします。しかし、仲間と協力し合あい、勉強を続けていけば突破できると信じています。

来年1月末には、東京での後期研修会が予定されており、参加するつもりでいますが、それまでの間に、介護予防研究会としての活動が一步でも二歩でも前進できているような状況を作りたいと考えています。

各師会活動報告及び会員の消息

(二戸、盛岡、奥州、一関、大船渡)

二戸師会報告

広報担当 古舘吉弘

皆さんは、この1年をどのような気持ちで過ごされましたでしょうか。

それにしても、今年ぐらい1年が過ぎるのが早く感じた年はないと思います。

昨年の大晦日に、雨と雷が発生したかと思ったら、夕方からは大雪に見舞われ、県北地域では停電が起きて、年明け三日くらいまで続いたところもありました。

幸いにして、私の家は停電は免れましたがお年寄りなどの話によると、電気が通るようになってから何日も停電したのは初めてだなどと言っていた人もいました。やはり、今の世の中、電気に頼った生活なので、かなり不便を感じられた方が多かったようです。

そんな年の初めではありましたが、もうすぐ暖くなるなど思いながら、3月に入り、卒業式や年度末で忙しくなってきた矢先に、3.11の大地震と大津波が発生しました。またその時には、再び停電に見舞われ、私も2日間電気のない生活をしました。それでも、沿岸地域の方々に比べれば大したことはないと思います。

このような、大震災は今世紀最大の災害ではないでしょうか。多くの尊い命が失われました。あれから、時間が経っていますが中々復興が進んでいないように見受けられます。いつになったら元通りの状態に戻れるのでしょうか。

亡くなられた方々には心からお悔やみ申し上げるとともに、被災され今頑張っておられる方々に早く元通りの状態に戻れますよう祈ります。

そのほかにも、今年は異常気象による台風や大雨などで、全国各地で被害が出たりと、今年あまり振り返りたくない1年だったと思います。

我が、二戸師会の会員は、特に被害も受けませんでしたので、普段通りの生活をしております。ほかにも書きたいことはたくさんありますが、来年こそは穏やかな1年であってほしいですね。

さて、二戸師会の活動状況についてですが、5月8日に定期総会を開催しました。特に今年は、震災関連の話題と県師会が公益法人になるか一般社団法人になるかが話し合われました。

5月29日 震災ボランティアで宮古に行ってきました。

11月16日 わくわく荘にてマッサージの奉仕を行いました。

その他、各会議や生涯研修会に参加しております。

とにかく、今年はいろいろありましたが、沿岸地域の会員の皆様には、まだまだ厳しいと思いますが、いち早く落ち着いて仕事ができる環境になりますよう祈り、終わりといたします。

盛岡師会報告

総務部 中渡智彦

皆さんこんにちは。総務を担当していた松下さんが4月から会計を担当することになり、戎さんと一緒に総務を担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は2名の方が入会し、1名の方が宮古師会から転入され58名となりました。ご紹介します、千葉敏行さん、千葉妙さん、中村強真さんです。

さて、3月11日に起きた東日本大震災で、県内全域が停電となり、盛岡市で早いところでは1日ちょっとで復旧したところもありましたが、二日間停電していたところもあったようです。

連絡網を通じて会員の安否確認をしようにも電話もつながりにくく、時間もかかり、大変でしたが、全員無事で被害もないと確認できたときには、ほっとしました。

被災地でのマッサージボランティアは、3月27日から始まり7月いっぱいまで実施しました。

大船渡、宮古へ朝の早いバスや電車を使ってボランティアに参加し、盛岡師会からも多くの会員の皆さんに協力してもらうことができました。なかには10回近く参加した人もいたのでは！！本当にありがとうございました。

今年の東鍼連は宮城での予定でしたが、震災の影響で来年に延期となり、去年よりも1回多い5回の研修会が開催されました。また、9月には金ヶ崎での研修会にも多くの皆さんに参加してもらうことができました。

以下に盛岡師会の事業を記します。

4月10日 定期総会。

10月16日 一関国際ハーフマラソンでマッサージボランティア。

11月6日 西厨川老人福祉センターでマッサージボランティア。8人で18名施術。

12月3日 忘年会。

12月24日 IBCラジソンにおいて、岩手放送本社ロビーでマッサージボランティア。

ほかに、4回の役員会、県や上部団体行事へ参加しました。

また、盛岡市とタイアップして、市内4か所の老人福祉センターでのマッサージ指導教室を行いました。

盛岡師会は、会員数が去年よりも2名減って58名となり、研修会への参加者も増えてはおりますが、まだ1度も参加したことの無い方々もいますので、24年度は会員の皆様の一層のご協力をお願いして、報告といたします。

奥州師会報告

副師会長 小野田サヨ子

本年は、歴史に残る災害の年となりました。沿岸の業友は言うに及ばず、内陸においても皆何らかの影響を受けたことと思われます。業界のみならず、日本全体に暗雲が立ち込める中、私たちにも厳しい現実が迫ってくるかと思われます。

しかし、私たちには人を癒す力があります。この力をもって人に寄り添い、共に頑張っって参りましよう。

さて、本年の奥州師会の活動報告です。

平成23年

4月10日 定期総会

5月29日 第1回役員会

- 7月 5日 宮古市総合体育館におけるマッサージボランティアに小澤会員参加
8月 9日 はり・きゅうの日に因んで地元新聞に広告を掲載
8月21日 老人ホームへの慰問治療
9月25日 第2回生涯研修会（金ヶ崎町中央生涯教育センター）開催を地元師会として担当
12月25日 第2回役員会
平成24年
1月22日 新年会予定
3月 4日 第3回役員会予定
尚、5月より宮城師会から中村龍哉会員が転入しました。

一関師会報告

一関師会長 館下正則

- 4月17日 平成23年度定期総会。会員9名参加。神崎浩之県議（顧問）に出席いただく。（一関市福祉センター）
5月15日 第1回慰問治療。協力者11名。（福光園アネックス、関生園ケアサポート）
9月 4日 第2回慰問治療。協力者10名。（福光園アネックス、関生園ケアサポート）
10月16日 第30回一関市国際ハーフマラソンマッサージ奉仕。あはきの日記念事業として本部共催。会員9名、本部2名参加。

会員動向

9月4日、会員の高橋清さんが逝去されました。ご冥福をお祈りします。

次に、今年1月に盛岡師会から吉川望さん、5月に大船渡師会から奥友清氏さんの2名が入会しました。現在、会員数は11名です。

そのほか、生涯研修会には積極的な参加を呼びかけております。

大船渡師会報告

大船渡師会長 古水健吾

- 4月28日 避難所でのマッサージ奉仕活動。カメラアホール、3名参加で7名施術。
5月 1日 岩手県師会通常総会に2名出席。労働福祉会館（盛岡）。
6月12日 生涯研修会に2名参加。アイーナ（盛岡）。
7月10日 避難所でマッサージ奉仕活動。カメラアホール、3名参加で10名施術。
10月23日 生涯研修会に2名参加。盛岡視覚支援学校。
11月13日 生涯研修会に2名参加。アイーナ（盛岡）。
12月11日 忘年会開催。百樹屋（ももきや）10名参加。
奉仕活動参加者数、6名。（避難所でのマッサージ奉仕、2回で3名ずつ）。
施術者数、17名。

〈まとめ〉

大船渡師会の23年度の活動は、震災の影響の中での始まりとなってしまいました。

それが、全員が無事だったという事が本当に良かったと思いました。

家・治療室を修繕しての始まり、仮設住宅・店舗での始まり、内陸での新たな場所での始まり等でした。

このような中で、避難所でのマッサージ奉仕活動と、忘年会を行う事ができました。

震災後、電話等では、連絡はとれていても顔を合わせることが出来ずにいましたが、忘年会を通し、お互いの近況報告や今後の活動について等を話し合う事が出来、良かったと思います。

最後になりましたが、この度の東日本大震災では、皆様からの沢山の支援物資やお見舞金、心暖まる励まし等を頂き有難うございました。今後も一日も早い復興をめざして頑張っていきたいと思えます。

遠野師会報告

遠野師会長 朝橋正美

今年は、健康づくり教室かスポーツトレーナーのどちらかやろうと考えていました。遠野市の方で健康づくり教室はやられています。推定700人ぐらいで、月ごとに万歩計の歩行数、血圧、心拍数、体重等の統計をとって指導もしているようです。

それで、私の方は、県師会では誰もやっていないトレーナー活動を、ためしにやってみることにしました。

3月11日に震災があり、岩手県のスポーツ大会は4月まで、ほとんど中止になりました。それからトレーナー活動は、9月まで何もませんでした。

9月28日、遠野市小学校陸上競技会で、初めてトレーナー活動をしました。活動といってもひとりだけです。内容は、先生から選手がふくらはぎが痛いと言われたがどうすればいいでしょうかと相談にきましたので、ウォーミングアップとストレッチを十分に取ってくださいとアドバイスしました。

10月10日、全日本ロードウォーク大会（北上市）で選手2名ケアしました。ひとりは50kmに出場し、ゴールしたあとに歩けなくなりました。原因はシューズがあわなかったのか、まめがつぶれて出血していました。もうひとりは、10kmに出場した選手で、疲労回復の鍼をお願いされましたので喜んで引き受けました。その選手は福島県浪江町からの参加でした。また来年も来てくださいと握手して別れました。

今年のトレーナー活動は、ウォーミングアップとして考えていたので良かったです。2016年の岩手国体に向けて5年計画を立て、進めて行きたいと思えます。

宮古師会報告

宮古師会長 上館 宏

東日本大震災について、被災地被災者支援について、それぞれの要望が叶うようにして欲しいと願っています。個人的には、家屋の損壊がありましたが、生命に危険が及ぶものではありませんでしたが、3月11日以降、睡眠障害が続いております。

沿岸部の先生方のご心痛に比べたら、無に等しいと自分を叱咤して今出来る事に専心して今日まで参りました。

ボランティアは、地元の被災者の方に僅かながらさせていただきましたが、岩泉町長の知り合いという、東京の鍼灸師有志の方々が数日間いらしたときに、自分の無力さを痛感しました。田舎ゆえに、こういう事態においても、周囲からの制約があり、思いきって活動出来ませんでした。内陸部の先生方に、応援要請できたら岩手県師会の存在感もアピールできたと考えます。これは、宮古師会長として力不足と言われても仕方ありません。

師会長として何も貢献出来ておりませんが、患者さんに少しでも按摩マッサージ鍼灸の良さを体感してもらえるよう、微力ながら努めております。

開業して4年目を迎えますが、患者さんの期待に応えられる、地元の鍼灸師按摩マッサージ指圧師として認められるよう、常に勉強しつつ無資格者、無免許者との差別化をして参ります。

「第二部」 創立 70 周年記念特集

長年にわたり、岩手県師会発展にご貢献下さいました、歴代役員五名の方からご寄稿いただきました。感謝を込めてその文章を掲載させていただきます。

創立 70 周年に寄せて

奥州師会 石川文治

(昭和 49 年度～昭和 62 年度・理事長在任、現相談役)

昭和 16 年 12 月 16 日、戦時下、岩手県鍼灸按摩マッサージ師会連合会が、灯火管制の薄暗い所、岩手県教育会館で開催され、時の岩手県衛生課長の竹内守之輔を初代会長に頂き発足しました。二代目は、柴内魁三県立盲学校長で、三代目から一関の吉家松寿先生が継がれました。

昭和 20 年に敗戦となり、マッカーサー指令により鍼灸が問題となりましたが、板倉博士等の先生方のお働きにより撤回となり、その後、厚生省後援の鍼灸按摩師再教育養成講習会が、昭和 23 年 9 月 12 日より 26 日迄 15 日間、東京北多摩郡小金井町の浴思館で開催され、岩手より吉家会長と山本近氏、石川文治、佐々木ヨシエ氏と 4 人参加し、全国から 170 名の参加で受講し、帰県後盛岡と水沢の二会場で伝達講習会を開催致しました。

私は、昭和 49 年 5 月 5 日、久慈の総会で第八代の会長に就任しました。52 年 10 月 16 日、東鍼連総会が秋田の湯瀬温泉で開催され、当時の岩根全鍼連会長より、急いで法

人にするようお話がありました。同月 26 日、県環境保健部医薬課に渋川副会長と二人で伺い、担当官法貴主事、千葉主事に指導を頂き定款例を持ち帰りました。8 月 5 日、(社)宮城県鍼灸按摩マッサージ会の申請書類のコピーが送られてきて参考にしました。

昭和 53 年 3 月 12 日、盛岡市政経ビルで社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会設立総会を開催、出席 80 名満場一致で承認される。7 月 26 日書類がそろって文書課に回され、8 月 28 日千田正岩手県知事より公益法人設立許可が下りる。理事長石川文治、副理事長畠山忠司、渋川澄意、越本政男、常務理事に下佐征昭、三沢五郎、山本ミヤ、四戸文男、中村哲夫、猪ノ口富蔵氏。

法貴主事と千葉主事には、手に取る様指導を受けました。最後にまとまった書類を見ると、会の全貌がはっきりわかる様になっておりました。

回 想

盛岡師会 下佐征昭

(平成 1 年度～平成 21 年度・理事長在任、現顧問)

あれは確か昭和 45 年の春であった。年 1 回の定期総会が花巻師会(当時の当該会員数 20 数名)の当番で、花巻温泉「さなぶり荘」で開催された。

総会の議題案件は粛々と順調に進み、その中で最大の案件である会費値上げ案が提案された。値上げの賛否討論が侃々諤々なされ、議場は値上げやむなしに傾きかけたところで、議長が採決を諮ろうとした時、突然、花巻師会長である沢田清雄氏が、「この値上げには断固反対だ。花巻師会はこれから全員退場する」と宣言。堂々と胸を張ってひな壇の前を通り、茫然と見送る会員をしり目に会場から去って行った。

残された会員諸氏は、当番師会の暴挙に大会がすっ飛び、途中中止が頭をよぎり、歴史に汚点を残すことを心配し、当時の会長菅野長治氏、石川文治氏、渋川澄意氏、畠山忠司氏ら、幹部が急遽協議し、花巻師会から登用されていた、日頃から温厚な副理事長の畠山忠司氏に斡旋を依頼した。数十分後、説得に応じた花巻会員は、どういう訳か万雷の拍手に迎えられ再び会場に姿を現し一件落着した。

このドタバタ劇は、花巻師会の思惑通りに運び会費値上げは執行部取り下げとなった。以後の花巻大会は花巻会員の張り切りようには、目を見張るものがあり大会そのものは大成功に終わったことは言うまでもない。

役員末席にいた若輩者の私は、あざやかな駆け引きの妙を知り先輩たちの立ち振る舞いをうらやましくも感じた。

当時の先輩諸氏は、地域師会の団結力が強く、軽米の加藤利勝氏、久慈の大崎慶作氏、北上和賀の高橋久氏、胆江の菊地安夫氏、一関の北峯忠志氏、気仙の佐々木吉男氏、釜石の越本政男氏、宮古の野沢孝一氏など指導力に富んだ大ボスがまとめつつ真ん中にいて業会を動かしていた。そんな中には、血気盛んな人が必ず存在し、懇親会後の二次会では妥協を許さない議論が飛び交い、挙句の果てには、取っ組み合いの喧嘩もみられ、とにかく皆が個性的な人ばかりで、がむしゃらに生きてきた古き良き時代でもあった。

創立 70 周年を迎えて

二戸師会 山本孝一

(平成1年度～平成21年度・副理事長在任)

私が県師会に入会したのは、昭和52年。早いもので35年近くなります。

入会してその年に県北師会担当で県総会が開催されました。自分の所の会員もわからず、県の組織そのものも知らないままの総会でした。

そして、53年に社団法人が認可され、58年から県の仕事をさせて頂きました。総務・会計・事業と一通り担当させて頂きました。

総務担当のときには、昭和63年から平成4年まで議事録を担当しました。最初手書きでしたが、ワープロを購入し作るようにしました。テープ録音してやっておりましたが、途中でテープが切れることもあり困ったこともありました。

また、会計では、以前は県会費として、県と全鍼師会とを合わせて集金しておりましたところを、途中からそれぞれ分けて集金することにしました。

事業部では、会計が逼迫し2年ぐらいテープ会報にしたこともあります。

東鍼連では司会、事務局などを担当させて頂きました。ワープロも古くなりパソコンに買い替えました。この仕事をやってなければパソコンはマスターしていなかったと思います。

会議に出席するのに電車に乗り遅れたり、電車が途中で止まったり、乗り越して八戸に泊まったりと、いろいろなことがありました。岩手県師会も、あと数年で一般社団法人に移行します。

振り返ってみますと、私は社団法人とともにやってきたような感じがしております。下佐先生はじめ役員皆様のご協力、そして会員の温かいご支援を頂き、恙無く仕事ができましたことを心より感謝申し上げます。

県師会の益々の発展を祈念しております。

創立70周年を迎えて

奥州師会 小澤信男

(平成14年度～平成21年度・副理事長在任)

今年度は、本会社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会創立70周年を迎え、誠に喜ばしい次第です。

しかし、未曾有の東日本大震災に見舞われ甚大な被害に心が痛みます。当会会員の中にも被災された方がおられました。改めて、この会報誌上をお借りしお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より祈っております。

震災直後、佐々木理事長は、いち早く会員の安否と義援金募集、更に避難所でのマッサージ奉仕、あるいは、仮設住宅での施術所開設方法等において行動されました。他県師会より早い岩手の即決対応に、全鍼師会の杉田会長も感動されたと聞いております。本当に、役員の方々もご苦労様でした。

私は、昭和47年に岩手県立盲学校（当時）専攻科を卒業（当時30歳）と同時に生まれ育った金ヶ崎町で開業し、同年業会（岩手県師会）に入会しました。それから40年、今年70周年と同じ歳（古希）を迎えました。本会顧問の石川文治先生（93歳・奥州師会）は現役で働いております。あやかりたいものです。

これまでの70年間の私には、20歳にして中途失明者となり、紆余曲折の時期もありました。本会におかれましても、創立以来、戦時中物資統制による消毒薬や白衣等、配給制度となり、又、戦後GHQより鍼灸の禁止令が発せられ業界存亡の危機に立たされる等、激動の時代を乗り越えられてきたのです。

昭和53年には、念願の社団法人の認可を得、現在に至っているのであります。これも偏に、歴代会長さんをはじめ諸先輩の先生方のご努力の賜物と敬意を表しております。私ども業会の存在は、業者間の絆でもあり、無資格者に対する刺戟になるのでもあります。私の仕事の支えでもあります。これまでの景気低迷による、来院患者の減少や業会の会員の減少と現実は厳しく、個人個人の生きるための自衛策は不可欠であります。業会の組織強化と発展も大切であり無視できないと思います。

70周年を期に、一人一人の意識の中で若い皆さんのやる気が原動力となり、より一層魅力ある業会にしようではありませんか。

平成25年には、新法人に移行のこと、後世のためにも頑張りましょう。

会員皆様のご多幸をお祈り致します。

設立70周年に寄せて

社会福祉法人 岩手県視覚障害者福祉協会
理事長 及川清隆

(平成14年度～平成21年度・本会監事在任)

創立70周年記念を迎えられ、岩手県視覚障害者福祉協会を代表して心よりお祝い申し上げます。

これまで、長年に渡り鍼灸マッサージ業を通じて、県内の医療保健衛生に貢献されてきたこと、特にも、視覚障害者の適職でもある鍼灸マッサージ業の課題に、真正面から会員一丸となって取り組み、業権を死守されてきたことに対して敬意を表するものです。

一口で70年と言っても、戦前、戦後の混乱期や近年の社会情勢の混迷度を想いますと、ご苦労が絶えなかったことと想います。私自身を省みまして、平成14年度から監事を4期担当したことからも、この大変なご苦労は拝察されるものであります。

昨今、統合医療、無免許者の横行、タイスパセラピー国内への参入、関係7団体の足並みの乱れ等、取り巻く課題は数えればきりがありません。願わくは、小異を捨てて大同についていただき、関係7団体の結束で上記の課題を解決する自助努力を期待するものであります。

当会は、理念綱領4本の柱の1本に「視覚障害者マッサージ師、鍼師、灸師の自立支援」を掲げています。そういう意味でも、これまで同様、貴会と強く連携を図りながら歩調を合わせて活動したいと考えておる所存です。

本年は、東日本大震災で、貴会も当会も多くの会員が甚大な被害に遭いました。このことは、とても悲しいことでしたが、同時に、組織の大切さや会員の支えあいの尊さを実感させられた1年でもありました。

遅ればせながら、被災された会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い安心した生活が訪れますよう、祈念しております。

結びに、貴会の益々の御発展と会員皆様方のご健勝とご活躍をご祈念して、設立 70 周年記念誌への祝意といたします。

平成 23 年 12 月吉日

「第三部」東日本大震災特集

被災者マッサージボランティア体験記

盛岡師会 佐藤 茂

治療中、突然ラジオから警報音が鳴った、2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分。地震が来るのかと思うも、大したことないと高を括っていた。そして、予想を裏切るあの大きな揺れ。急いで患者さんに留鍼していた鍼を抜鍼した。

幸い、治療所も、家も被害はなく、棚の物もほとんど落ちなかったが、停電のため、ラジオ、ストーブ、蛍光灯が消えた。部屋は温まっていたので、この時の患者さんの治療には差し支えはない。慌てることはない、揺れが治まるまで待つとするか…。

しかし、やけに長い揺れ、なかなか治まらない。停電以外被害がないことで、呑気に揺れが治まるのを待つ方もどうかしているが(この時分、事の深刻さを知らない)、可笑しなことに、この患者さんは地震が来たことに気が付いていなく(地震中、腹臥位の状態なので、何も見えていない)、「先生、なに私の周り走っているの?」と言い出す始末…。

我々のような人間が沿岸に住んでいたら、真っ先に津波の餌食になったであろう。日を追うごとに被害の深刻さが分かってきたある日、理事長よりボランティア活動をすると電話があった。そして、会員からボランティアの義援金を募りたいので人数分の振込用紙とそれに各会員の住所、氏名を記入して頂きたいとの要望があった。

即、それに応えるべく地元の郵便局へ行く…、が、震災のため流通が麻痺して振込用紙がない!岩手町中と玉山区の郵便局へ行き、やっとかき集め各会員の住所、氏名を記入し、理事長のもとへそれを郵送した。

今、振り返ると震災が起きて間もない時期に行動に出たのが良かったと思う。岩手県師会の判断は正しかったのだ。おかげで、40 万円以上の義援金が心ある会員等より送

られ、岩手県師会として数カ月に亘るボランティア活動を全う出来た(私自身、この義援金で3、4、5月と大船渡のボランティアへ行けた)。

震災後、ラジオなどでよく聞くフレーズに、『絆、ふるさとは負けない』がある。私はこのフレーズを気にしている。

岩手県師会は神奈川県師会に次いで、ボランティア活動が活発に出来た(それも被災県でありながら)。これは、岩手県師会の会員の『絆』があったからこそなし得たことである。震災があっても、この『絆』があるかぎり岩手は希望を持つに値するであろう。

県師会の皆様と並びに、共にボランティアしてくれた他県の師会の方や、一般の方にも謝辞を申し、ペンを納めさせていただきます。ありがとうございました。

被災者マッサージボランティア体験記

二戸師会会長 古舘吉弘

2011年3月11日午後2時46分に、とてつもなく、また、今まで体験したことのない地震が襲ってきました。私は、その時間帯には3月20日の理事会の資料を作成するためにパソコンと向き合っていました。なんだかわけわからなくパソコンが止まり停電しました。何が起きたのか一瞬とまどいましたが、大きな横揺れで、まるで船に乗っているようでした。そして長く続きました。いつ止まるのか、もう終わりだろうと思うと再び揺れるなど、本当に経験したことのない揺れでした。

それからは、電話も使えず携帯もなかなか通じなく、携帯のテレビをつけると沿岸ではかなり大きな津波が来ていると聴き驚きました。それから、理事長に何とかメールが通じ安否確認をお互いに行ったりしました。

そこで、理事長から被災地域でのマッサージボランティアを立ち上げると聴き、素早い行動には驚きましたが、私も何とか協力できないかなと思っていました。ただ、私の所は軽米というところで、大船渡は時間的にも無理かなと思っていたところに、宮古でも行えると聴き早速申し込みました。

そこで、二戸師会から3人で5月29日に行くこととなり、私は朝6時半に家を出て、途中二人と合流して9時半頃の宮古行きのバスで行きました。宮古駅にバスは着きましたが、その周辺は変わった様子はありませんでした。午後1時前に宮古総合体育館に着き、熊本からの炊き出しの人達が来ていて人が一杯集まっていました。

そんな中、被災者が寝泊まりしている場所に案内されました。本来は広い場所なのにたくさんの方がいて狭く感じました。早速マッサージを行いました。話を聴いていると、ほとんどの人が、まさかあれほど大きな津波が来るとは思わなかったと言っていました。それと、いつまでもここには居たくはないと言っていました。やはり、集団生活をしたことがないためか、ストレスが溜まって大変ですよと言っていました。

そのほかにも、仕事がなくなり、今探しているんだよと言っていた人もいました。すべての財産や、家族を亡くされた方々もかなりいたようで、とても詳しく聞くことはできませんでしたが、何とか明るく努めようとしている感じがしました。

できれば、もう少しいろいろな所に出かけてボランティアをやれば良かったかなと思います。よくよく考えてみると、私が逆の立場だったら避難所で生活できるだろうか？見えない私には無理だろうなと感じました。

ボランティアに行くまでの間も、いろいろとニュースなどや何度か行っている人からは話は聴いていましたが、ただ、見えない私には周りを見ることができませんので、想像でしか感じることはできません。それにしても、想像できないくらい大きな被害だったんだろうなと聴くたびに思っていました。

被害は全国的には時間が経つにつれ、忘れかけてきているかに思われますが、我々被災地域に住む者にとっては忘れることはできません。

とにかく、これからがまだまだ大変だろうけど、皆さんには頑張ってもらいたいですし、我々もできる限りどういう形になるかわかりませんが協力したいと思います。

被災された会員に対し、一刻も早く元の状態に戻れますようお願いしたいと思います。

被災者マッサージボランティア体験記

一関師会長 館下正則

4月10日、大船渡市赤崎漁村センターへ被災者マッサージボランティアを目的に、会員4名で向かった。何事もなかったかのように、穏やかな朝だった。

現地に入って、私達4名は街の様子にあ然として言葉を失った。それは、まるで戦争映画のワンシーンを思わせるような光景だった。

そうこうしている内に現地に着いた。大船渡市社協の職員に漁村センターまで送っていただき、各自手分けしてマッサージを開始した。

その中で、ある一人のおじいさんの一言が耳から離れない。

「やあ、先生よお、わしの家、津波に流されたのは、今回が2回目なんだよ。」と、怒りと悲しきで涙ぐんでいる。

私達4名は、帰り道の車中では会話が少なかった。

東日本大震災を体験して

理事長 佐々木 実

2011年を振り返る時、何といってもまず最初に3月11日の東日本大震災を挙げずにはいられない。「未曾有・稀有・巨大・甚大・とんでもない・大変な」、どんな言葉を並べても表現仕切れない大震災が起きてしまった。体験したことのないマグニチュード9という揺れがもたらした大津波は、岩手・宮城・福島の海岸を総なめにした。死者・行方不明者合わせて2万人余。

その時、私は出張治療に向かう車の中にいた。車の蛇行で地震と気づき車を止めたが、その車が跳ねるように揺れる。道端の家々が、ガタガタともものすごい音を立て、今にも倒れて来そうだ。揺れは3分以上は続いたと思う。沿岸から100キロ以上も離れている私の所でも震度6弱。途端に電気が止まり、電話が止まった。分単位で繰り返される大きな余震。外では雪が降り出した。

家に戻って、棚から落ちた物を片付けて、ラジオをつけたら大津波の知らせ。三陸の町々は壊滅状態という。沿岸部の会員はどうなっただろう。うまく逃げてくれたらどうか……？寒さと恐怖で一夜が明ける。

内陸の電気と電話は三日目に復活した。そこで私は、会員の安否確認に乗り出した。携帯も含めた電話番号とメールアドレスは入会の時に提出させている。が、どうしても電話がつながらない。ネットを使ったり、放送局から呼びかけてもらったが、三日程は何も掴めなかった。やがて、被害の大きかった大船渡の会員が携帯の電波の届く所まで足を運び電話をくれた。それがきっかけとなり、やがて次々と消息が分かった。結局、会員全員命だけは無事だった。が、家や治療院を流された人は7人に及んだ。他に、家の一部損壊、両親が行方不明の会員、親戚を亡くした会員多数。それらのことが十日程で把握出来た。道路も寸断され、ガソリンも手に入らない中で、それは信じられないほどの早さでの把握だった。今考えれば、会員一人一人の連絡法を執行部でしっかり確保していたことと、会員一人一人の横の繋がりがしっかりしており、情報を執行部に寄せてくれたためと思う。

安否確認が終わったら、次は被災地救助である。被災地避難所での鍼灸マッサージボランティアを、と思って希望者を募ったら30名を越える人数が集まった。だが、岩手県は広過ぎる。内陸部盛岡を基点に考えても、被災地の沿岸部までは片道3時間、交通費だって往復なら5千円を越える。そこで、被災した会員外全員に振込み用紙を送って義援金を求めた。全盲者のことも考えて、振込用紙には金額の欄だけを除いて必要事項を全て記入した。幸い、ガソリンや灯油不足で治療院は開店休業状態で暇だったのだ。

義援金はすぐ振り込まれて来た。会員の9割を越える人から寄せられた。それをバックに実施したボランティアは、避難所がなくなる7月までの間に、延べ70箇所、150人余が参加し800人を施術することが出来た。

現地社会福祉協議会へのボランティア登録を済ませ、交通の回復を待つ臨んだ初回3月27日、大船渡でのボランティアは忘れることが出来ない。一人に1個しか売らない弁当を手に、1日一往復しかない大船渡行きのバスに乗り込んだ。安否を気遣い、内陸から被災地に向かう人ばかりで、沈うつな3時間だった。

避難所に当てられた盛（さかり）小学校では、ライフラインがすべて止まった中、反射式ストーブ一つを多くの人たちが囲んでいた。床に毛布を敷き、そこでマッサージをした。2週間以上も着の身着のまま床にごろ寝している人たちは、心も体も弱わり切っていた。

「防波堤があるから大丈夫とか、ここまでは来ないと言っていた人、物を取りに家に戻った人はだめだったんだ。一波より二波の方がずっと大きかったんだ。それと車で逃げた人、渋滞に巻き込まれて、そのうち津波に追いつかれてしまったんだ」。マッサージを受けながらぼつぼつと話すおじいさん。

「ここまでは来ないって言われていた所まで津波が来たんだ。私も慌ててもっと高い所さ逃げたもの。ゴーッと音したから後ろ振り返ったらすぐそばまで真っ黒い波が来てた。軽トラに乗っていた男の人が『助けてくれえ』って言いながら流されて行っちゃった。流れて来た枝につかまりながら『いやだ、いやだ！死にたくない！』と言って波

に飲み込まれて行った若い女の人も見たよ。流されて来た車が家さぶつかったり、家が家さぶつかったりしてあつという間に街がなくなったんだよ」。

泣きながら訴える中年の女性。

配られた昼食は、縦 15 センチ・横 10 センチくらいの発泡スチロールの入れ物に薄くご飯が盛られ、隅に鶏肉の卵とじが乗っているだけ。それと缶詰 1 個。

「これでも前より良くなったよ。1 日おにぎり 1 個という時もあったんだから」と笑う。

「マッサージしてもらってえども、おら 2 週間以上も風呂さ入ってねえから」と遠慮するお年寄り（勿論施術したが）。痛々しさに胸が痛くなる。

2 度目はそれから 1 週間後。やはり、大船渡の避難所だった。社協の職員の案内で津波の爪跡を見せてもらう。同行した私の妻は「ああっ！」と言った切り黙り込んでしまった。光景はテレビで見るより残酷だった。全体が見渡せるからだ。海から 2 キロ以上も陸に入った所で、船がひっくり返っている。つぶれた家の上に車が乗っている。残った家も傾き、ヘドロがこびりつき黒ずんでいる。つぶれた壁の間から海が見える。道路一つ隔てて高い方は家が残し、低い方は瓦礫となっている。市街地だった痕跡はまったくない。電柱や立ち木もない。瓦礫は道路の部分だけは寄せられているが、あとは当日さながらにあちこちで山を作っている。「木端微塵とはこのことね」と妻がつぶやいた。

その日は天気良く、海は信じられないほど静かだった。

避難所は 1 週間前より好転していた。発電機で電気を起こし、テレビでは甲子園の決勝の様子が映し出されていた。外ではボランティアの人たちがラーメンや焼き鳥を焼いて振舞っていた。

被災地でのボランティアは毎週日曜に行き、どの避難所でも喜ばれた。時が経つにつれ避難所に衝立やミニテントが設けられ食事も良くなって行った。が、この頃からうつ状態の人が増えて来たように感じる。

「親も流されて亡くなったし、家もないし、これから先、生きて行っても何か良いことあるんですかね」と肩をもんでいた 30 代の女性に話しかけられた。

「生きていること、そのものが大切なんだと思いますよ。生きていれば今日より明日、明日より明後日と良くなって行く可能性があるじゃないですか。死んだらそこで終わりですよ」私はとっさのことにどぎまぎしながら答えた。

「そうだよ。あんた達だって目が見えないのに、こうしてはるばる私たちを助けに来てくれているんだものね」こっちが予想していない事柄でその場は収まってしまった。震災当初は逃げることで、助かることで一杯だった人達が、時が経つにつれ、前途を考えるようになったのだ。

今回の大震災は、私達に様々なことを教えてくれた。どんなことをしても、所詮人は大自然の力にはかなわない。かなうとしたらそれは逃げることで、互いが助け合い、横の繋がり、人と人との絆を確かめること。岩手県師会の対応として、あのように困難な状況の中で、早く会員の安否確認が出来たのも、ボランティア活動がスムーズに出来たのも、微力な一人一人が結束し大きな力となったからだと思う。恥ずかしながら今年ほど会員一人一人を大切に思ったことはないし、団結の強さも感じたことはない。

最後に、全国の業友の皆さんから震災に対してお見舞いの電話やメール、そして多額の義援金を頂いたことに深く感謝申し上げペンを置くこととする。

ありがとうございました。

義援金芳名簿

(敬称略)

金額	名 前	合計人数	合計金額
50,000	小野田サヨ子	1	50,000
30,000	奥州師会	1	30,000
20,000	千葉芳生	1	20,000
13,910	小澤 信男	1	13,910
10,000	石川文治 佐藤茂 木村真子 桐生誠 佐々木厚男 中村哲夫 菊地弘 若生雅代 佐々木実 下佐征昭 伊藤庸一	11	110,000
6,000	井口力	1	6,000
5,000	山本英典 朝橋正美 印牧享 佐々木金男 山本孝一 松下優子 佐藤素子 千田節雄 澤口恵子 村上晃 明内孝吉 阿部哲雄 戎ゆみ子 古館吉弘 佐々木由美 及川清隆	16	80,000
3,446	渡辺豊彰	1	3,446
3,000	山本光子 瀧沢恵美子 川村良二 高田房子 藤原和美 小山田由紀子 吉川望 斉藤真一郎 佐々木ひで子	9	27,000
2,000	米沢真奈美 高橋本行 佐々木薫 北峯瑞也 鷹木俊夫 竹井誠 高橋清 高島道春 千葉謙一 村上直人 衣川健一 横道孝雄 館下正則 山口浩道 藤原清悦 工藤政吉 姉帯三春 渡邊茂樹 早坂正治 夏井弘斉 宍戸華子 中嶋義人 菅野則夫 大澤睦子 袖林広正法 菊池守 鈴木利奈 高橋久喜	28	56,000
1,500	盛内克則 盛内優子	2	3,000
1,000	立花梅子 中渡智彦 木村キヌ子 大下福一 道上良子	5	5,000
合計		77	404,356

避難所ボランティア内訳

月日	場 所	参加者数	施術者数
3/19	遠野市 上郷地区センター	1	11
3/20	遠野市 上郷地区センター	1	10
3/26	遠野市 上郷地区センター	1	5
3/27	遠野市 上郷地区センター	1	5
3/27	大船渡市 盛小学校	4	55
3/29	大船渡市 カメリアホール	2	22

3/30	大船渡市 カメリアホール	2	14
4/3	大船渡市 大船渡中学校	8	40
4/3	遠野市 上郷地区センター	1	5
4/4	大船渡市 カメリアホール	1	8
4/7	一関市 サンアベニティーズ	1	2
4/10	大船渡市 赤崎漁村センター	4	28
4/10	遠野市 上郷地区センター	1	3
4/11	一関市 祭時温泉かみくら	2	6
4/12	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	8
4/15	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	1	6
4/17	大船渡市 綾里 綾姫ホール	5	19
4/18	一関市 祭時温泉かみくら	2	6
4/19	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
4/20	宮古市 宮古市総合体育館	5	20
4/20	大船渡市 カメリアホール	1	13
4/21	奥州市 衣川荘	1	12
4/22	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
4/24	宮古市 宮古市総合体育館	3	13
4/24	大船渡市 リアスホール	4	20
4/25	一関市 祭時温泉かみくら	2	6
4/26	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
4/28	奥州市 衣川荘	1	6
4/28	大船渡市 カメリアホール	3	6
4/29	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	4
5/2	一関市 祭時温泉かみくら	2	6
5/3	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
5/3	宮古市 宮古市総合体育館	3	13
5/8	宮古市 宮古市総合体育館	3	18
5/9	一関市 祭時温泉かみくら	2	5
5/10	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	1	6

5/13	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
5/15	宮古市 宮古市総合体育館	2	16
5/16	一関市 祭時温泉かみくら	2	7
5/17	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	1	6
5/20	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	7
5/22	大船渡市 リアスホール	2	18
5/22	宮古市 宮古市総合体育館	3	24
5/23	一関市 祭時温泉かみくら	2	5
5/24	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	7
5/27	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	8
5/29	大船渡市 蔵ハウス	2	18
5/29	宮古市 宮古市総合体育館	4	23
5/30	一関市 祭時温泉かみくら	1	6
5/31	大船渡市 カメリアホール	1	2
5/31	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	2	6
6/4	一関市 祭時温泉かみくら	1	6
6/5	宮古市 宮古市総合体育館	3	16
6/13	一関市 祭時温泉かみくら	2	4
6/14	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	1	4
6/19	宮古市 宮古市総合体育館	2	21
6/19	大船渡市 気仙苑	2	11
6/20	一関市 祭時温泉かみくら	1	4
6/21	一関市 矢びつ温泉瑞泉閣	1	4
6/26	宮古市 宮古市総合体育館	5	18
6/26	大船渡市 気仙苑	2	17
6/26	大船渡市 カメリアホール	1	9
7/10	宮古市 宮古市総合体育館	3	14
7/10	大船渡市 カメリアホール	3	10
合計		64	722

「第四部」資料編

◇創立 40 周年記念特集号より

本会創立 40 周年記念特集号（昭和 57 年 3 月 15 日発行・第 14 号）に掲載された文章を「記録の歴史館」として伝承したいと考え、諸先輩に感謝の意を捧げながら、抜粋して再掲させていただきます。

昭和 56 年 5 月 10 日（日）盛岡市八幡宮境内「さくら会館大ホール」において、出席者 70 名により挙行された、創立 40 周年記念祝賀式典の記録です。

(1) 講演－「本会・四十年の歩み」

第七代会長 菅野長治

菅野でございます。

お話しに入る前に失礼でございますが、ひと言お礼を申し上げさせて頂きたいと思えます。只今は家内ともども過分のお誉めのお言葉と、本当にお心こもる賞状を頂戴しまして誠に感謝に堪えないことでございます。恐縮です。有難うございました。それでは坐って失礼させていただきます。

半時間ぐらいで 40 年を語るということは難しい訳でございますので、新しい事は大方の皆さん御存知のことだと思えますので、昔の事を中心に置きまして思い出すままに申し上げて見たいと思えます。

昔は各町を中心にして組合があった様でございます。それを大正 9 年頃に同盟会と言う「業和」または「友和」団体が出来まして、そして幾つかの地方団体が県単位の組織として出来たものが岩手県鍼灸按摩マッサージ同盟会、こう言う会が成立して居った訳でございます。

昭和 16 年夏頃から、当時は、御存知の通り戦争は益々烈しくなる時機でございましたので、あらゆる職域は、戦争に向かって協力するような態勢を執って居った訳でございます。従がしまして、私共三療界もまた業家結束して国家のために職域を通して努力しようではないかと、こういう業者一般の気持ちでございましたし、又当局からも、そのような御指導を頂いた訳でございますので、同盟会の大沢昌太郎さん、田村仙左衛門

さん、姥名三太さん、それから同盟会の内部から、山本近さん、瀬川勝次さん、それに私と、この6人を一応準備委員と言いますか、そういう様な相談機関として16年の夏頃から県下一丸とする組織作りの準備を進めた訳でございます。

それが、たまたま私共は、16日を持って総会を開いて、そして創立総会というものにしようと、こういう事で同盟会を解散して、そして進めて居った訳ですが、12月8日にあの太平洋戦争が始まりましたが、それには関係しないで、16日に決めたままで、県教育会館で創立総会を行ないました。時に12月16日でございます。そうして、県下11地区の業者の代表が集まりまして、華々しくこの会を結成したのでございます。

当時は、色々な意味で御当局より御指導を頂かなければならないというような関係もございまして、初代会長に、当時の岩手県衛生課長の竹内守之輔氏にお願い致しました。色々な御指導は係官の川田京蔵さんとおっしゃる方が、私共を御指導して下さいました。半ば、強制組合のような組織になって居りましたから、大方の業者は留まった訳でございます。その後、戦争が苛烈化するに従いまして、段々と物資の不足が厳しくなって参った訳でございます。

それで、差し当っては、消毒薬とか脱脂綿、白衣といったものが治療資材として手に入れることが次第に難かしい状況になって来た訳ございまして、この会を通して配給を頂くという事になった訳でございます。それで、その当時の役員は、配給の仕事で大分あわただしく活動した訳でございますが、私等は余り「先立ち」しませんでした。それから、昭和18年の年に一応会も整ったと言うことで、今度は、会長を当時、盲啞学校の校長でありました柴内先生にお願いする事になった訳でございます。そして、当時の私共の「あん摩鍼灸」の免許状というのは「免許監札」となっていた訳です。

それで、会としては、免許監札では犬の監札とおんなじではないか（満場爆笑）、これでは矢張りいかにも具合が悪い、免許状にして頂こうと県の方にお願いしました処「まあ、それは、良かろう」とこう言うことで、免許の書き換えをいたしました。昭和18年に、免許監札から免許状となった訳でございます。

それから、昭和20年に戦争が終りまして、今度は民主主義が入って来た訳でございます。そうすると、吾々の会の会長を、他の方にお願いするということは自主性が無いではないかと言うことになりまして、改選期では有りませんでしたけれども、昭和21年の11月、確か21日だと思いましたが・・・、総会を開きまして、柴内会長先生任期半ばにして民主主義にのっとりまして、業者の中から会長を出そうということになりまして、一関の吉家松寿さんが第三代の会長に成られた訳でございます。

そうしまして、その年、伊豆の伊東で全国の業者大会がございました。それで、本県からは吉家さんと宮古から舘下さんと言う方が、代表として全国大会に参りまして、その大会において全国団体を結成する必要があると言う事になり、その全国大会を今度は創立総会に切り換えて、ここでいわゆる全鍼連の誕生を見た訳でございます。

（注：昭和22年6月20日、伊豆・伊東温泉・止水亭において全鍼連が創立された）

その年の、確か9月23日と記憶して居りますが、マッカーサー司令部に対しまして、厚生省が色々な旧制度は22年末をもって、新憲法による処の法律規則でなければならぬと言う様な事になって居ったらしいです。それで、厚生省では当時の内務省令、吾々に関係する取締規則の内務省令をこのまま継続させて頂きたいという事で、当時の総司

令部に伺いを立てたところ駄目だ、医療は急がなければならぬんじゃないか・・・、知識の浅い鍼灸業者、しかも盲人の人達までが、そういう業をやるという事はいかにも不適切だ、駄目だと。

こういう事で、これをマッカーサー施風と言って居りましたが、中止命令が出た訳でございます。これは大変だという事で、吾々の団体は勿論のこと、学校関係その他関係する人連全部が立ち上って存続運動に乗り出した訳でございます。

地方においては、地方の有力者を頼んで進駐軍と話し合っただけで、県衛生課を通して、これの働きかけをして頂く、中央は中央で厚生省中心にして存続運動をする。幸いにして、全鍼連が発足した後でございましたので（全国大会を早速開きまして運動を熾烈に行ないました。板倉武博士、石川日出鶴丸博士など、鍼灸に理解ある方であり、その道の権威者であった訳でございましたので、こういう方々からも、学問的にも立派なものだという事を進言して頂き、また、理教連などもその業界を憂いて、日夜を通して内容を説明する文書をまとめて、これを総司令部に出すという具合にして、熾烈な運動を展開した訳でございます。

総司令部も、追い追いに分って参りまして、12月3日にOKが出た訳でございます。宜しいという事になった訳でございますが、宜しいという言葉が出る前に、だいたい総司令部の意向が段々分って来たので、あらかじめ準備をして置いた訳ですが、「按営法」（当時は「按摩鍼灸営業法」と法律になって）217号の法律が12月7日に国会を通過して居ります。

そうして、これが12月20日に公布になった訳でございますが、厚生省は現在の時点において、試験を受ける様な修業者が有るだろうという事で、この取締規則がある内に試験を行なおうという事で、岩手県では12月26日、27日に臨時試験という事で、按摩鍼灸の試験をやって下さいました。

この時にも、洩れた者が有っては大変だ、この機会を逃しては大変だという事で、県下の該当者に洩れなく伝えるべく指令を出しました。そうして、昭和23年の1月1日からこの按営法が施行された訳でございます。

そうしましたら、今度は二つの条件がついた訳でございます。その一つは教育問題でございまして、つまり按摩鍼灸師として、その業をしようとするものは、文部大臣の認定した学校または厚生大臣の認定した養成施設において、按摩師は2年、鍼灸師は4年、但し大学に入学出来る者にあつては2年、そして解剖、生理、病理、衛生、按摩鍼灸師になるのに必要な知識と技能を修得したものであつて、都道府県知事の行なう試験に合格した者に都道府県知事は免許を与える、という事になった訳でございますので、この周知に努力をいたしました。

それから、もう一つの条件と致しましては、もう少し既存者に教育をしなければならない、こういう事になった訳でございます。それで、講習会を開きました。再教育講習会と言うことで、昭和24、25、26年と3ヶ年行ないました。それで、中央で中央講習会を開いて、そうしてその受講者が地方に帰って伝達講習、その人を中心に講習会を開く様になった訳でございます。それで、本会からは吉家松寿さんと山本近さんとこのお二人をお願いしまして、中央の講習会に出て頂いて、そうしてこの方々に地元の会員、業者の皆さんに伝達講習をして頂いた訳でございます。ところが、当時台風で山田線が

寸断されまして、宮古釜石方面の方々は大変ご苦労されましたし、吉家さんは、一関の水害で東京に行っている間に家が流されてしまったという様な、誠にお気の毒な事もあった訳でございます。

それも終りまして、まず一安心ということで、昭和26年の8月、創立10周年の記念式と言いますか慰労会と言いますか、併せて8月21日に身障会館でいたしました。余り長くなるといけませんのではしよって申し上げます。

それから、26年の年に、今度は中央に日鍼会が出来ました。それで、本会の中からも追い追いと日鍼会の下部団体を結成する事を、おそらく中央から呼びかけがあったと思いますが、段々と逃げる会員の方々が何人か抜けられて、そうして、いわゆる現在の県鍼灸師会が誕生した訳でございます。

そうして、26年の年に、藤井初太郎さんが第四代目の会長さんに成られました。それから、更に28年に改選期になりまして、今度は石川文治現会長さんのお父さん、円作さんとおっしゃったのですが、石川円作さんが会長さんに成られました。第五代会長という事になります。

そうして、今度は少しの間順調に進んで居るのでございますが、その間、中央では法律改正の問題が有りまして、そうして、矢張りそれに呼応して色々中央に協力いたしました。それは療術の問題でございます。療術の問題を中心に法律改正の問題が出された訳でございます。それから、当時から既に保険問題が起こっていました。

それから、昭和32年の年にまた改選期で、今度は、山本近さんが六代目の会長に成られた訳でございます。処が36年の7月に突然、東京の方に移られるという事になった訳でございます。それで、地元の副会長であった私を取りあえず会長代行をやれと役員会のお話しでございまして、私が次の総会まで会長の代理を務めさせて頂いた訳でございます。

昭和37年の総会を水沢で行なった訳ですが、そうしましたところ「代理をやったんだから、今度は本番をやったら如何か」という様なもので、また会長を言い付けられまして、会長に居座ってしまった訳でございます。

それから、そうして居りますと今度は、昭和41年の11月だったと思いますが、盛岡に晴眼者の「あん摩鍼灸」の養成施設が出来るそうな……。こういう話になった訳でございます。本当か嘘かと思ひまして、県の方へお尋ね致しました処、そういう話があると。これは大変だと、こういう狭い処に、業者を養成する機関が出来たんでは吾々が困る、という事で、ここにおられる鍼灸師会の三浦先生、それから盲協の大堂先生、こういう方々と相談を致しまして、つまり関係の団体すべてですね。本会はもとよりのこと、鍼灸師会、盲協、盲学校、同窓会など相結束しまして、反対阻止運動に立ち上がった訳でございます。それで、東京にも行きました。東北ブロックにも頼みまして、それから県庁にお願いする事は当然のことです。

設置者の納得を得るべく、設置者とも折衝も致しました。全鍼師会や日盲連にも頼みまして、それから三浦先生や大堂先生と一緒に、確か正月の3日でしたか、東京に行って厚生省に乗り込んでお願いをしたり、中央審議会の委員の人達にお願いしたり、いずれも緻密な阻止運動を行いました。その結果、設置しようとした方も断念したかに見えた訳でございますが、矢張り経過を監視する必要があるというので、暫らく対策委員

会を継続いたしました。そして、昭和 45 年の 3 月、大丈夫だろうと言う事で対策委員会を解散して居ります。

その間に、昭和 23 年、東北連合会の総会を大沢温泉でいたしました。これはおそらく、所謂東鍼連の創立総会ではなかったかと思いますが、この場合には、ここに居られる畠山さんが幹事でしたので、大変ご苦労なさいました。

いずれその様にして、東北の大会は 5 年置きに 6 年目に回って来て、そうしてそれが現在も続いている訳でございます。

それから、十周年記念式・二十周年記念式・二十五周年記念式・三十周年の記念式そして今日、四十周年の記念式を迎えた訳でございますが、最後に昭和 53 年の 8 月 28 日、法人が認可になった訳でございます。

この法人につきましては、石川理事長さんを中心に、役員全員が非常にご努力をされた訳でございますし、幸いに県御当局は非常に良く御理解下さいまして、そうして御尽力を頂きました、また鍼灸師会の三浦先生からも側面的な御援助を頂いた、そうしてスムーズに、スムーズと申しますと失礼になりますが、お働きの結果スムーズに県から法人の認可を頂戴いたしまして、8 月 28 日から社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会という事で、今日を迎えた訳でございます。

まだ、ございますけれど、本当に、はしょって申し上げましたが、それでも時間を超過したと思いますが、これで今日「四十年の歩み」のあらましにさせて頂きたいと思っております。大変失礼いたします。

(2) 岩手県鍼灸按師会創立四十周年に思う

第六代会長 山本 近

昨年は、県鍼灸按師会創立四十周年の盛大な記念式典が行われ、誠におめでとうございました。私、この式典に参列出来なかった事を大変残念に思っております。

本会結成当時の細かい記憶については、40 年という遠い霞の奥に消えて、定かではありませんが、昭和 16 年の、たしか暮の中旬頃だったと思います。教育会館において会を開いた時の状況を思い出します。私、昭和 13 年の春、盛岡に帰って陸軍病院に勤め、新山小路に看板を掲げていた頃、田村仙左エ門さん、大沢昌太郎さん、それに姥名三太さんが、突然拙宅に来られて、何か業界関係の原案を作ってくれと頼まれたのがきっかけで、県内業界一本化の話が、折にふれて進められた事を思い出します。結成大会に至るまで、何十遍となく会合を重ね、県のお役所にお百度参りをして苦労を重ねた訳ですが、その都度集まった常連は、田村、大沢、姥名の三氏のほか瀬川勝次氏、それに私といった処だったと記憶しています。役所の窓口は、県衛生課の小島とか小玉とかいう係長で、この人が又、私達の集りに来た時は、いい事をいって喜ばせておいて、役所を訪ねていくと、上役の一言で話しがコロリと変るといふ有様で、散々苦労させられた事を思い出します。先程のメンバーの中に、菅野先生の名が出ていないのは、当時、先生は公務員だったので公（おおやけ）をはばかって表には立たず蔭の協力者となって下さった為です。

当時、郡部にはそれぞれ業団体や盲団体が幾つかありましたが、比較的広い基盤を持っていたのが佐藤安友さんを会長に頂く、岩手県鍼灸同盟会（或いは同志会だったか）と言う会でしたので、当然、この会の佐藤会長が統一団体結成のイニシアチブを取り、主役を演じていても良い筈ですが、なぜか、らち外にありました。田村さんなど、佐藤先生の愛弟子でしたのですが、なぜか彼を支持されませんでした。私は、当時、長く盛岡を離れていたもので、この間の深い事情はわかりませんので深入りすることは避けませんが、佐藤氏のワンマン振りが、どうやら業界統一にはマイナスと評価されたからではなかったかと思います。この点、田村氏が私情を殺して大勢につかれたのは御立派だったと思います。

そして、県鍼連の初代会長には、衛生課長の竹内守之輔氏と決まりました。当時はお役所の権力が絶対だったので、衛生課長を担ぎ出す事が最良の策と考えられたからです。そして、竹内会長が一期で柴内会長となり、三代目が吉家松寿氏、続いて藤井初太郎氏に変わり、更に石川円作氏「現会長の父君」が三期つとめられ、その後を私が受けて、たしか三期目半ばで東京に来てしまったという事になります。

私の任期最後の年の36年7月8日に、創立二十周年記念式典を盛岡駅前の中央バスの二階ホールで行ない、その夜、鶯宿で盛大な祝賀会を行なった事を覚えています。温泉で祝賀会というのは、当時の県鍼連としては画期的な事だと、みんなに喜ばれたものです。

当時、郡部の実力者といえ、花巻の藤井初太郎氏、水沢の阿部秀男氏、宮古の三輪勝次郎氏等が大ボスで、そのほか、何人かの中ボスがいましたが、これ等の人達は何れも「海千山千」の苦労人で隠然たる勢力を持っていましたので、これらの人達の協力なしに県鍼連は立って行かないと言ってもよい程でした。しかし、これらの人達は既に故人となられ、結成総会に活躍された幹部の人達も、大方他界されましたので、結成当時の生き残りといえ「私一人」という事になりました。当時の思い出を語りあう友を、ことごとく失った私の心境は、まさに寂寥（じゃくりょう）の感に堪えないものがあります。しかし、彼等が心血を注いで指導し育ててこられた二代目、三代目の後継者が石川現会長をはじめ渋川澄意氏、越本政男氏を中心に県鍼灸師会は、今や盤石の基盤の上に置かれ、着実に成長しつつある現状を照覧されて、定めし会心の笑みをもって満足しておられることと思います。

私はいま、この拙い稿を終るにあたり、今は亡き旧友達の御冥福を心からお祈りすると共に、県鍼灸師会の今後の限りない御発展を祈念するものであります。

昭和57年2月記

◇70年間のデータ

当会に保存されていた資料を整理して掲載させていただきます。

(1) 社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会歴代会長一覧

代	氏名	生年月日	就任期間	備考
1	竹内 守之助	不明	昭和16年12月～18年6月	元岩手県衛生課長 死亡

2	柴内 魁三	明治 12 年 9 月 10 日	昭和 18 年 6 月～21 年 11 月	元岩手県立盲学校長 昭和 41 年 3 月 9 日死亡
3	吉家 松寿	不明	昭和 21 年 11 月～26 年 4 月	死亡
4	藤井 初太郎	不明	昭和 26 年 4 月～28 年 4 月	死亡
5	石川 円作	明治 21 年 1 月 2 日	昭和 28 年 4 月～34 年 4 月	石川文治の実父 昭和 42 年 11 月 28 日死亡
6	山本 近	不明	昭和 34 年 4 月～37 年 6 月	元岩手県立盲学校教諭 死亡
7	菅野 長治	明治 43 年 11 月 20 日	昭和 37 年 6 月～49 年 5 月	元岩手県立盲学校教諭 平成 15 年 1 月 30 日死亡
8	石川 文治	大正 7 年 4 月 11 日	昭和 49 年 5 月～62 年 5 月	現相談役
9	越本 政男	昭和 5 年 10 月 10 日	昭和 62 年 5 月～平成 1 年 5 月	昭和 63 年 4 月 5 日 死亡 残任期間を下佐征昭代行
10	下佐 征昭	昭和 20 年 2 月 7 日	平成 1 年 5 月～22 年 4 月	元岩手県立盲学校教諭 現顧問
11	佐々木 実	昭和 32 年 3 月 1 日	平成 22 年 4 月～現在 まで	

(2) 社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会歴代役員名簿

年度	理事長名	副理事長名	常務理事名	理事名	監事名	その他
昭和 57	石川文治	越本政男 渋川澄意	下佐征昭 三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 多田兼雄 菊地安夫	加藤敏勝 南川忠 北峯忠志 熊谷勝 鈴木源十郎 中村強眞 大崎慶作	鞠子栄 野沢孝一	
昭和 58	石川文治	越本政男 渋川澄意	下佐征昭 三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 多田兼雄 菊地安夫 大川イト	加藤敏勝 南川忠 北峯忠志 熊谷勝 鈴木源十郎 中村強眞 大崎慶作 板橋トク	鞠子栄 野沢孝一	
昭和 60	石川文治	越本政男 下佐征昭	三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 菊地安夫 大川イト 大野六雄	加藤敏勝 北峯忠志 熊谷勝 鈴木源十郎 中村強眞 鞠子栄	山本孝一 阿部禎夫	

				板橋トク 八重樫昭則		
昭和 62	越本政男	下佐征昭 北峯忠志	三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 鞠子栄 菊地安夫 山本孝一	加藤敏勝 八重樫昭則 熊谷勝 菊地孝一 星千治 中村強眞 上田博也 板橋トク	阿部禎夫 大川イト	
平成 1	下佐征昭	北峯忠志 山本孝一	三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 鞠子栄 菊地安夫 千葉健一	八重樫昭則 高橋等 熊谷勝 菊池守 星千治 上田博也 中村強眞 岩本芳弘	阿部禎夫 篠正紀	
平成 3	下佐征昭	北峯忠志 山本孝一	三沢五郎 猪ノ口富蔵 中村哲夫 鞠子栄 菊地安夫 千葉健一	八重樫昭則 高橋等 熊谷勝 菊池守 星千治 佐々木至 中村強眞 岩本芳弘	阿部禎夫 篠正紀	
平成 5	下佐征昭	北峯忠志 山本孝一	猪ノ口富蔵 阿部禎夫 中村哲夫 鞠子栄 千葉健一	吉田謙司 八重樫昭則 高橋等 鈴木富夫 菊池守 星千治 佐々木至 小野一茂 岩本芳弘	菊地安夫 大川イト	
平成 7	下佐征昭	北峯忠志 山本孝一	猪ノ口富蔵 阿部禎夫 中村哲夫 鞠子栄 千葉健一 伊藤庸一	吉田謙司 高橋隆 高橋等 鈴木富夫 菊池守 佐藤良一 星千治 佐々木至 小野一茂 岩本芳弘	小澤信男 岸和子	
平成 11	法務局の指導で役員改選は平成12年度に行うことに				県の指導で、外部から監事1名となり、岸和子が辞退し、千葉健一盛岡市議が	

	なった。				就任	
平成 12	下佐征昭	山本孝一 鞠子栄 中村哲夫	伊藤庸一 佐々木実 山本英典 佐藤明 小野田サヨ子	猪ノ口富蔵 吉田謙司 高橋隆 小澤信男 鈴木富夫 佐々木至 小野一茂 岩本芳弘	千葉健一 (外部) 北峯忠志	
平成 14	下佐征昭	山本孝一 中村哲夫 小澤信男	伊藤庸一 佐々木実 佐藤明 山本英典 小野田サヨ子 菅原史生	古舘吉弘 佐々木金男 坂本昭市 高橋隆 鈴木富夫 佐々木至 小野一茂 岩本芳弘	千葉健一 (外部) 及川清隆	
平成 16	下佐征昭	山本孝一 小澤信男 佐々木実	伊藤庸一 佐藤明 小野田サヨ子 山本英典	古舘吉弘 佐々木金男 坂本昭市 高橋隆 千田節雄 千葉謙一 佐々木至 小野一茂 岩本芳弘	千葉健一 (外部) 及川清隆	
平成 18	下佐征昭	山本孝一 小澤信男 佐々木実	伊藤庸一 佐藤明 小野田サヨ子 山本英典	古舘吉弘 佐々木金男 佐藤良一 高橋隆 千田節雄 千葉謙一 佐々木至 小野一茂 玉沢孝志	千葉健一 (外部) 及川清隆	顧問 石川文治 相談役 中村哲夫
平成 20	下佐征昭	山本孝一 小澤信男 佐々木実	伊藤庸一 佐藤明 小野田サヨ子 山本英典 袖林広正法 井口力	古舘吉弘 佐々木金男 佐藤良一 高橋隆 千田節雄 千葉謙一 古水健吾 小野一茂	千葉健一 (外部) 及川清隆	顧問 石川文治
平成 22	佐々木実	伊藤庸一 佐藤明	古舘吉弘 山本英典 袖林広正法 井口力 佐藤茂 松下優子	佐々木金男 朝橋正美 千田節雄 館下正則 古水健吾 上舘宏	千葉健一 (外部) 千葉謙一	相談役 石川文治 顧問 下佐征昭

(3) 年度別総会開催地一覧

年度	担当師会	場所	備考
昭和 40	本部		
昭和 41	本部	県公会堂	25 周年
昭和 42	北上和賀師会	瀬美温泉	
昭和 43	気仙師会	海浜センター	
昭和 44	本部		
昭和 45	花巻師会	さなぶり荘	
昭和 46	本部	自治会館	30 周年
昭和 47	宮古師会	観光ホテル	
昭和 48	本部	金属会館	
昭和 49	宮古・下閉伊師会	丸久ホテル	
昭和 50	盛岡師会	螢山荘	
昭和 51	本部	さくら会館	
昭和 52	県北師会	ホテル金田一	
昭和 53	本部	自治会館	法人設立
昭和 54	本部	さくら会館	
昭和 55	胆江師会	翠明荘	
昭和 56	本部	さくら会館	40 周年
昭和 57	釜石師会	浪板海岸ホテル	
昭和 58	本部	さくら会館	
昭和 59	一関師会	いつくし園	
昭和 60	本部	労働福祉会館	
昭和 61	北上和賀師会	対滝閣	
昭和 62	本部	さくら会館	
昭和 63	花巻師会	ホテル花巻	法人化 10 周年
平成 1	本部	さくら会館	
平成 2	気仙師会	大船渡グランドホテル	
平成 3	本部	さくら会館	50 周年
平成 4	宮古師会	ホテル舟木	
平成 5	本部	さくら会館	
平成 6	久慈師会	ホテル福乃屋	

平成 7	本部	第一ホテル	
平成 8	盛岡師会	八幡平ハイツ	
平成 9	本部	労働福祉会館	
平成 10	二戸師会	北陽荘	法人化 20 周年
平成 11	本部	労働福祉会館	
平成 12	水沢師会	サンピア金ヶ崎	
平成 13	本部	労働福祉会館	60 周年
平成 14	本部	労働福祉会館	
平成 15	釜石師会	宝来館	
平成 16	本部	労働福祉会館	
平成 17	一関師会	サンルート一関	
平成 18	本部	労働福祉会館	
平成 19	花巻師会	ホテル千秋閣	
平成 20	本部	労働福祉会館	法人化 30 周年
平成 21	大船渡師会	キャピタルホテル 1000	
平成 22	本部	労働福祉会館	
平成 23	本部	労働福祉会館	創立 70 周年、東日本 大震災で中止

(4) 記念式典関係行事一覧

設立総会	昭和 16 年 12 月 16 日	盛岡市「教育会館」	
創立 10 周年	昭和 26 年 8 月 21 日	盛岡市「身障会館」	
創立 20 周年	昭和 36 年 7 月 8 日	盛岡市「盛岡駅前観光ビル」	20 名表彰
創立 25 周年	昭和 41 年 5 月 9 日	盛岡市「県公会堂第 2 ホール」	2 名表彰
創立 30 周年	昭和 46 年 6 月 6 日	盛岡市「自治会館」	24 名表彰
社団法人設立総会 (認可)	昭和 53 年 3 月 12 日 昭和 53 年 8 月 28 日)	盛岡市「政経ビル」	
創立 40 周年	昭和 56 年 5 月 10 日	盛岡市「さくら会館」	26 名表彰
法人認可 10 周年	昭和 63 年 4 月 24 日	花巻市「ホテル花巻」	1 名表彰
創立 50 周年	平成 3 年 5 月 10 日	盛岡市「さくら会館」	33 名表彰
法人認可 20 周年	平成 10 年 5 月 17 日	二戸市「金田一温泉北陽荘」	
創立 60 周年	平成 13 年 5 月 20 日	盛岡市「岩手労働福祉会館」	25 名表彰
法人認可 30 周年	平成 20 年 4 月 27 日	盛岡市「岩手労働福祉会館」	
創立 70 周年	平成 23 年 5 月 1 日	盛岡市「岩手労働福祉会館」	(中止)

(3月11日発生の東日本大震災のため中止)

(5) 各種表彰者名簿

国 (叙勲)

昭和 58 年	黄綬褒章	松田惣次郎
平成 1 年	黄綬褒章	佐藤種二
平成 5 年	勲五等双光旭日章	菅野長治

平成12年 黄綬褒章 加藤敏勝
平成15年 従6位 菅野長治 (死亡後)
平成16年 勲5等双光旭日章 石川文治
平成23年 黄綬褒章 村上直人

厚生省

昭和60年 石川文治
平成1年 菅野長治
平成9年 北峯忠志、三沢五郎 (あはき法制定50周年)
平成10年 加藤敏勝 (自立厚生)

岩手県

昭和58年 (医療功労者) 石川文治
平成6年 (県政功労賞) 菅野長治
平成14年 (自立厚生者) 北峯忠志 大崎喜作
平成16年 (保健医療功労賞) 中村哲夫
平成17年 (保健医療功労賞) 山本孝一
平成18年 (保健医療功労賞) 猪ノ口富蔵
平成20年 (保健医療功労賞) 小澤信男
平成22年 (保健医療功労賞) 下佐征昭

全鍼師会

昭和62年 (全鍼師会40周年記念) 菅野長治 石川文治 越本政男
平成3年 (岩手県師会創立50周年記念) 北峯忠志 菊地安夫 三沢五郎 加藤敏勝
平成4年 (全鍼師会法人化10周年) 猪ノ口富蔵
平成10年 (あはき法施行50周年記念) 中村哲夫
平成12年 (全鍼師会法人化20周年) 下佐征昭 鞠子栄 中村強眞
平成13年 (岩手県師会創立60周年) 山本孝一 高橋等 阿部禎夫
平成18年 (全鍼師会法人化25周年記念会長表彰) 小澤信男
平成23年 (全鍼師会法人化30周年記念会長表彰) 伊藤庸一

東鍼連表彰者

昭和61年 (40周年記念) 石川文治 越本政男 下佐征昭 三沢五郎 菊地安夫
佐々木吉男
平成8年 (50周年記念) 北峯忠志 加藤敏勝
平成18年 (60周年記念) 山本孝一 小澤信男

岩手県師会

昭和46年 創立30周年記念表彰者24名
(盛岡) 船越由蔵 沢口清政 藤沢正五郎 四戸文雄 三沢五郎
(花巻) 渡部由松 佐達文四郎
(北上和賀) 高橋久
(水沢) 安倍好恭 千田馨 今野進 高橋等
(一関) 北峯忠志 阿部吉久
(気仙) 佐々木吉男
(遠野) 多田弥太郎
(釜石) 上田博也
(宮古) 野崎カツ
(久慈) 大崎喜作
(県北) 高田仁太郎
(本部) 小野寺伴二 山本ミヤ 八角ミサオ 野沢孝一

昭和56年 創立40周年記念表彰者26名

特別表彰者 菅野長治 畑山ちゅうじ

感謝状 菅野けさの

一般表彰者 細川一老 渋川澄意 下佐征昭 武田イト 小野寺日出子 藤原平太郎
大野六雄 八重樫昭則 沢田清雄 菊地安夫 渡部藤朗 高橋竜雄
北峯胤雄 小野寺質 小野寺安治 熊谷勝 菊地孝一 遠田博志 岩間悟郎
箱石竜一 加藤敏勝 滝沢昭蔵 松田惣次郎

昭和 63 年 法人化 10 周年記念表彰者 1 名

感謝状 石川文治

平成 3 年 創立 50 周年記念表彰者 29 名

(社) 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会理事長表彰

吉田孝一 伊藤愛子 木村一四 田代峰雄 高橋啓二 三原正一 猪ノ口富蔵
三枚堂トシ 中村哲夫 佐藤良一 鞠子栄 鞠子八重子 南川忠 岩城繁一
佐藤アキ 千葉キエノ 佐藤勇二郎 千葉孝子 及川成保 工藤六雄 鈴木富夫
佐藤良一 村上イワネ 遠田ツヤ子 刈屋雅行 畠山和久 中村強真 板橋トク
泉山助六

平成 13 年 創立 60 周年記念表彰者 21 名

一般表彰者

(盛岡) 上田晃 大澤睦子 山佐文男 千葉昭夫 工藤政吉 吉田大治
(花巻) 大川イト 吉田謙司
(北上) 小田島要助
(水沢) 千葉治子 但木岩子 池本房子 小澤信男
(一関) 遊佐隆 小野寺由雄 阿部哲雄
(大船渡) 小松正志 鈴木源十郎
(釜石) 寄松忠
(宮古) 佐藤しげる
(二戸) 上沢初江

平成 20 年 法人化 30 周年記念表彰者 15 名

一般表彰者

(二戸) 藤原清悦 古舘吉弘
(盛岡) 川村良二
(北上) 高橋隆 阿部利子
(奥州) 千田節雄 小野田サヨ子
(一関) 千葉謙一 伊藤庸一
(大船渡) 菅原利美 千葉健一 奥友清氏
(宮古) 小野一茂

感謝状 千葉健一 (盛岡市議) 小澤トヨ子 (小澤信男夫人)

(6) 東鍼連岩手大会開催地一覧

昭和 21 年 東鍼連結成

昭和 22 年 全鍼連結成 6 月 20 日、設立総会を伊東温泉紫水亭にて挙行。

(以下、岩手県での東鍼連開催記録)

昭和 36 年 7 月 8 日、盛岡駅前観光ビル

昭和 42 年 7 月 1 日、花巻市「花巻温泉花盛館」

昭和 48 年 7 月 7 日、松尾村「八幡平ハイツ」

昭和 53 年 7 月 15 日、花巻市「ホテル千秋閣」

昭和 60 年 7 月 6 日、盛岡市「つなぎ温泉愛真館」

平成 3 年 7 月 7 日、水沢市「ホテル翠明荘」

平成 9 年 7 月 6 日、一関市「巖美温泉溪泉閣」

平成 15 年 7 月 6 日・7 日、盛岡市「つなぎ温泉愛真館」

平成 22 年 7 月 4 日・5 日、盛岡市「つなぎ温泉ホテル紫苑」

(7) 当会の歩み (沿革)

昭和 16 年 (1941 年) 12 月 16 日、教育会館において設立総会が行われ、初代会長は県衛生課長竹内守之輔氏。直接は同課の山田兵蔵氏が指導助言に当たる。中身は協生組合であり、消毒薬、脱脂綿、白衣等治療資材の配合ルートとなったので業者は即加入する。

昭和 18 年 (1943 年) 6 月 26 日、定期総会において、第二代会長に盲学校長の柴内魁三氏が選出される。免許鑑札の書き換えが行われる。

昭和 21 年 (1946 年) 11 月 22 日、定期総会で、「業会は業者が会長を務めるべき」と柴内会長。任

期半ばで交替を強行し、第三代会長に吉家松寿氏就任。

昭和 22 年 (1947 年) 6 月 19~20 日、伊東温泉で開催の全国業者大会において、初代会長を子守良勝氏に決め、全鍼連を結成。この会議に、本県から吉家松寿、館下和助の両氏が出席。**同年 9 月 22 日**、総司令官から、鍼灸禁止の命令が出て、業者は戦慄し熾烈な存続運動を展開、苦闘 60 余日にして、ようやく**同年 12 月 3 日**、禁止令撤回を勝ち取る。—マッカーサー旋風—

同年 12 月 7 日、就業中の者を救済するため、県は臨時試験を行うと本会に通知。県下、該当者に機会を逃がさないよう周知徹底を図り受験させる。**同年 12 月 16~17 日**、国会で**法律 217 号成立**、**同 20 日公布**。**昭和 23 年 1 月 1 日より施行**。これは二つの義務付けがなされ、(1)さし当たり 3 月 31 日までに所定の届け出をすること。(2)直ちに既存業者の再教育を実施すること。これを受けて本会は届け出漏れのないよう、衆知に務めると共に、吉家松寿、山本近の両氏を中央講習会に送り、**昭和 24 年から 26 年の 3 ヶ年**にわたり、盛岡その他各地で伝達講習会を開催。

昭和 26 年 (1951 年) 4 月 30 日 (1951 年)、第四代会長に藤井初太郎氏が選出される。この時の総会で数名の会員が退会し、後に新団体「岩手県鍼灸師会」を結成する。**同年 8 月 21 日**、身障会館において創立 10 周年記念式を開催、再教育も終わり、喜びと慰労を兼ねて盛大となる。

昭和 28 年 (1953 年) 4 月 12 日、定期総会において第五代会長に石川円作氏選出される。この年、会報「岩手の三療」創刊号を発刊。

昭和 34 年 (1959 年) 4 月、第六代会長に岩手県立盲学校教諭の山本近氏選出される。

昭和 36 年 (1961 年) 7 月、創立 20 周年記念式と全鍼連の東北ブロック総会を、盛岡市駅前の観光ビル 2 階において開催。功労者 20 名を表彰。**同年 10 月**、第六代会長山本近氏、突然移住。副会長菅野長治氏が次期総会まで会長代行となる。

昭和 37 年 (1962 年) 6 月 22 日、水沢市における定期総会で、岩手県立盲学校教諭の菅野長治氏が第七代会長に選出される。

昭和 41 年 (1966 年) 3 月 9 日、元会長柴内魁三氏死去(享年 86 歳)。**同年 5 月 9 日**、県公会堂第 2 ホールにおいて、創立 25 周年を開催し創立以来の功労者、田村千左衛門、瀬川勝次の両氏を表彰し祝賀会を盛大に挙行。

昭和 42 年 (1967 年) 7 月 1 日、花巻温泉佳成館において北鍼会を開催。**同年 11 月 23 日**元会長石川円作氏死去(享年 79 歳)。

昭和 44 年 (1969 年) 11 月 8 日、晴眼者対象の按摩鍼灸養成施設設置の動きがあり、盛岡設置が具体化していることが判明。直ちに鍼灸師会、盲協、盲学校同窓会等、関係諸団体が丸となって、阻止運動に立ち上がり、中央や全鍼連東北ブロックの協力と、県及び厚生省等関係当局の理解により設置阻止に至る。

昭和 45 年 (1970 年) 3 月、按摩鍼灸養成施設設置反対委員会を解散する。

昭和 46 年 (1971 年) 6 月 6 日、自治会館 3 階において、創立 30 周年記念大会を開催。功労者 24 名を表彰。

昭和 48 年 (1973 年) 7 月 7 日、八幡平ハイツにおいて東鍼連総会を開催。

昭和 49 年 (1974 年) 4 月、第八代理事長に石川文治氏就任。**同年 12 月 23 日**、前会長の菅野長治氏藍綬褒章を受賞。

昭和 52 年 (1977 年) 8 月 21 日、理事会で社団法人化の準備委員会を設置する。

昭和 53 年 (1978 年) 3 月 12 日、盛岡の政経ビル 4 階において、社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会設立総決起総会を開催。**同年 7 月 15~16 日**、花巻温泉千秋閣において東鍼連総会を開催。**同年 8 月 28 日**、昭和 52 年の 8 月から準備にかかった石川会長をはじめ、役員らの努力と県鍼灸師会等の側面援助と県環境保健部医薬課の文書係等、関係職員の理解と尽力により岩手県知事より社団法人が認可される。

昭和 54 年 (1979 年) 6 月 24 日、盛岡のさくら会館において、中村知事をはじめ来賓多数を迎えて、社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の設立総会を盛大に挙げる。

昭和 56 年 (1981 年) 3 月、上部 3 団体より強い要請があり、県鍼灸師会、県盲協及び本会より、それぞれ 5 名ずつ委員を出し、業界再編成協議議会を設置する。**同年 5 月 10 日**、さくら会館において、創立 40 周年記念式典を開催。中館環境保健部長をはじめ、来賓多数を迎え 26 名表彰、内閣総理大臣鈴木善幸氏の祝電などで盛大な式典となる。

昭和 58 年 (1983 年) 5 月 13 日、岩手県健康づくり県民推進大会において、保健医療功労者として県知事表彰を受けた石川文治理事長が厚生大臣表彰を受ける。**同年 7 月 10 日**、盛岡の東屋本店において、盲協、盲学校同窓会、本会共催の松田惣次郎氏の黄綬褒賞授賞記念祝賀会を開催。

昭和 60 年 (1985 年) 5 月 19 日、労働福祉会館において、通常総会の後、石川理事長の厚生大臣表彰祝賀会を開催。**同年 7 月 6 日~7 日**、東鍼連総会をつなぎ温泉の愛真館において開催。**同年 11 月 19 日**、本会顧問の鈴木善幸氏が全鍼師会の国会議員顧問議員団会長に就任。

昭和 61 年 (1986 年) 7 月 7 日、宮城県秋保温泉において、東鍼連 40 周年記念式典が行われ、本会

から6名が表彰される。

昭和62年(1987年)2月15日、総合福祉センターにおいて、盛岡に岩手県柔道整復師専門学校設置の動きがあり、本会の他、鍼灸師会、岩手県柔道接骨師会、盲協、盲学校同窓会等の関係団体と共に設置阻止同盟会結成大会を開き、断固反対を確認する。**同年4月**、東京赤坂プリンスホテルにおいて、全鍼師会40周年記念式典が行われ本会から3名が会長表彰を受ける。**同年5月24日**、さくら会館において第九代理事長に越本政男氏が就任。

昭和63年(1988年)4月5日、現職の理事長越本政男氏、食道癌にて死去(享年57歳)。下佐征昭副理事長が職務代行。**同年5月19日**、衆議院本会議ついで25日、参議院本会議において、あはき法案議員立法にて可決成立。

平成1年(1989年)5月7日、第十代理事長に岩手県立盲学校教諭の下佐征昭氏就任。**同年6月**、黄綬褒章受章で佐藤種二氏、厚生大臣表彰で菅野長治顧問が授賞し東屋本店において、盲協、盲学校同窓会、本会共催授賞記念祝賀会を開催。

平成2年(1990年)5月19日、盛岡さくら会館において創立50周年及び祝賀会を開催。全鍼師会会長賞3名、一般表彰(理事長表彰)28名授賞。**同年7月7日~8日**、水沢の翠明荘において東鍼連総会を開催。

平成3年(1991年)4月21日~12月8日、月1回、全課程9回の日程で、盛岡の総合福祉センターにおいて厚生大臣指定講習会を全病理岩手支部、県盲協、県鍼灸師会、本会の免許所有者会員合わせて353名が受講。

平成4年(1992年)5月25日、青年部を結成し、運営規定を一部改正。

平成5年(1993年)5月23日、本会顧問菅野長治氏(元会長)、平成5年春の叙勲で勲五等双光旭日章を受章、さくら会館において祝賀会を開催する。

平成6年(1994年)5月24日、菅野長治顧問、岩手県功労賞を知事より受賞。

平成9年(1997年)7月6日~7日、第51回東鍼連岩手県大会を、一関の巖美町溪泉閣で開催し170名出席。**同年11月20日**、あはき師法制定50周年の集いで、本県から北峯忠志、三澤五郎の両氏が厚生大臣表彰を受賞。

平成10年(1998年)、通常総会において業会再編成計画を発表、12師会を10師会に統合し、師会名を一部改称。【盛岡、花巻、北上(北上和賀)、水沢(胆江)、一関(東磐を含む)、大船渡(気仙)、釜石(遠野を含む)、宮古(宮古下閉伊)、久慈、二戸(県北)の各師会】

平成11年(1999年)4月30日、北日本鍼灸福祉専門学校から、平成12年4月1日開設計画が出され、県を経由して厚生大臣に申請される。**同年6月4日**、岩手県視福協、鍼灸師会、全病理、理協連、盲学校同窓会、PTA、視友協、本会の八団体で「北日本鍼灸福祉専門学校設置反対連絡協議会」を設置。カンパ、署名、さらに厚生省、国会、設置者に陳情。

平成12年(2000年)4月1日、滝沢村大釜に、北日本鍼灸福祉専門学校が昼間部30名、夜間部30名で開校。**同年10月25日**、元理事の加藤敏勝氏、春の叙勲で黄綬褒章を受章し、二戸師会主催で祝賀会を開催。

平成13年(2001年)5月20日、創立60周年記念式典及び祝賀会を岩手労働福祉会館において開催。

平成14年(2002年)10月30日、自立更生者として、前副理事長北峯忠志氏が県知事表彰受賞。

平成15年(2003年)1月30日、元会長菅野長治氏死去。**同年7月6日~7日**、第57回東鍼連岩手大会及び第28回東北学術大会を盛岡のつなぎ温泉「ホテル愛真館」で開催。

平成16年(2004年)3月23日、元理事長石川文治氏、春の叙勲で勲五等双光旭日章を受賞し天皇陛下に拝謁。**同年11月12日**、前副理事長の中村哲夫氏、岩手県知事から保健医療功労賞を受賞。

平成17年(2005年)9月9日、筆頭副理事長の山本孝一氏、岩手県知事から保健医療功労賞を受賞。

平成18年(2006年)10月19日、前常務理事の猪ノ口富蔵氏、岩手県知事から保健医療功労賞を受賞。

平成19年(2007年)4月22日、通常総会で、公益法人改正による新法人設立委員会設置を承認。

平成20年(2008年)3月1日、会報40号発行。**同年4月27日**、岩手労働福祉会館で、通常総会と法人設立30周年記念式典及び祝賀会開催。表彰状を13名、感謝状を2名に贈る。**同年10月**、副理事長の小澤信男氏、岩手県知事から保健医療功労賞を受賞。

平成21年(2009年)、この年から生涯研修会実施。

平成22年(2010年)4月24日、通常総会において、第十一代理事長に佐々木実氏が就任。**同年7月4日~5日**、東鍼連岩手大会をつなぎ温泉「ホテル紫苑」で開催。**同年11月**、下佐征昭前理事長、岩手県知事から保健医療功労賞を受賞。

平成23年(2011年)3月11日、東日本大震災発生。会員7名が被災。被災地避難所での鍼灸マッサージボランティアを4ヶ月にわたって実施。**同年4月1日**、全鍼師会、公益社団法人となる。村上直人氏、春の叙勲で黄綬褒章受賞。**同年9月18日**、伊藤庸一副理事長、全鍼師会表彰受賞。

編集後記

事業部長 佐藤 明

今号は当会の記念特集号として、記録と保存をしておかなければならないことから、四部構成としました。第一部は、一年間の活動報告です。第二部は、会の歴史として後世に伝えていく必要があると思います。第三部は、防災意識を高める意味でも語り継ぎたいものです。第四部は、資料として残しておきたいものとして編集しました。

原稿のご協力をお願いした方に、この場をお借りし、改めて感謝と御礼を申し上げます。

平成 23 年を振り返るにあたり、岩手日報社による、岩手の 10 大ニュースを記しておきたいと思います。

①大震災、津波で甚大な被害、②「平泉」が世界文化遺産登録、③放射性物質の影響広がる、④岩清水に県民、国民栄誉賞、⑤小沢氏を強制起訴、公判開始、⑥達増知事が大差で再選、⑦復興相に平野氏就任、⑧TPP、県内にも抗議と歓迎、⑨「年越し寒波」波乱の幕開け、⑩新幹線「はやぶさ」デビュー。

このような結果が出ております。やはり、一番は東日本大震災を挙げています。

当会においても、沿岸部に住む会員が被災しました。その詳細は、本誌第三部に委ねることとしますが、これだけは、記しておかなければなりません。

それは、佐々木理事長の即断即決の行動力であります。会の連絡網やインターネット、ラジオ放送を駆使して安否情報の収集にあたり、全員無事を確認するや義援金の募金と被災地へいち早くマッサージボランティアを派遣するなど、その活動は、獅子奮迅という言葉にふさわしい働きとして、特筆すべきものと思います。

平成 24 年度は、一般社団法人移行に向けた準備を重点とし進めることとなります。

全会員のご協力を乞い願いながら、会報 44 号特集号をお届け致します。

奥 付

社団法人 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

平成 23 年度 会報 第 44 号 創立 70 周年記念特集・2011. 3. 11 東日本大震災特集
平成 24 年 3 月 18 日発行

発行人 理事長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第 13 地割 108 番地
電話 0195-77-2057

編集責任 事業部長（副理事長）佐藤 明
〒020-0117 盛岡市緑が丘 3 丁目 14 番 33 号
電話 019-681-8620

事務所(事務局) 理事長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第 13 地割 108 番地
電話 0195-77-2057

郵便振替 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 02360-9-19833

印刷所 HP・Webdesign Link（リンク）盛岡市黒石野 1 丁目 35-14
電話 019-663-2616 <http://www.linkstyle33.com>

SARNOS

— サynos —

新発売

痛みの治療に新しい提案

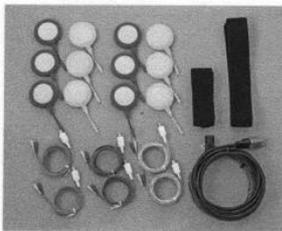
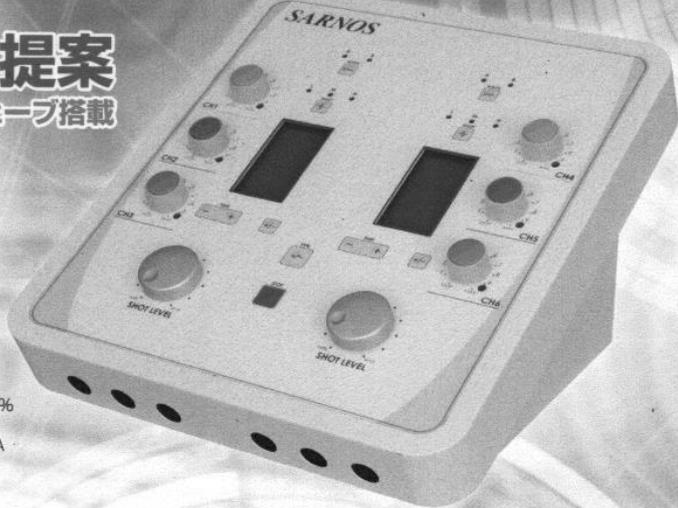
即効深部刺激、サynosだけのPDMウェーブ搭載

低周波治療器

SARNOS (サynos)

KE-548 **892,500円** (本体価格 850,000円)
(クラスII/特種) 認証番号: 222ALBZX00038000

- 定格電圧: AC100V
- 電源周波数: 50/60Hz
- 電源入力: 100VA
- 最大出力電圧: 130Vpp±20% (500Ω負荷時)
- 最大出力電流: 70±10mA Arms (500Ω負荷時)
- 出力周波数: 1.36kHz±10% ~ 1.74kHz±10% 2.7kHz±10%
- 出力波形: A、B
- 出力チャンネル数: 6
- 安全装置: ゼロスタート方式・ストップスイッチ・電激ヒューズ5A
- 本体の寸法: 幅330mm×奥行351mm×高さ226mm
- 本体の重量: 約5.2kg
- 保護の形式: クラスI機器
- 保護の程度: BF形装着部



【付属品】
 電源コード1本、アースコード1本、2P-3P交換プラグ1個、
 導子コード黄緑線各2本、丸型湿性平導子 黄色6個・青6個、
 マジックバンド長3本・短3本、添付文書1部、取扱説明書1部

体の深部まで刺激を自在にコントロールする
「SARNOS PDM WEVE」

ただいまデモンストレーションを実施中です。
 お気軽にお問い合わせください。

KANAHOT MOIST

カナホット
 モイスト 日本製

湿熱+セラミック温熱により血行をよくする

気持ち良さには
 理由がある。



しっとり
**“湿熱感”を持続させる
 特殊カバーを使用**



カナホットモイスト

KB-248 **50,400円** (本体価格 48,000円)

- 定格電圧: AC100V (50/60Hz)
- 消費電力: 80W
- 時間設定: 60タイマー(ゼンマイ式)
- 温度設定: 40℃以上70℃以下(自動調整)
- 寸法重量: 本体サイズ 約380mm×620mm 重さ 約900g
 カバーのサイズ 約430mm×730mm 重さ 約500g
- 安全装置: 本体内蔵サーモスタット
- 医療機器承認番号: 16300BZ201121000
- 一般名: 家庭用温熱治療器 ●JMDNコード: 71017000
- 内容物: 本体(バック)、電源スイッチ(60分タイマー)、
 スペアカバーを含む2枚、取扱説明書(保証書添付)、
 添付文書、ユーザー登録はがき

発売元 **株式会社 カナケン**
 本社: 〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-17-39
 TEL 045-901-5471代 FAX 045-902-9262
<http://www.e-kenkou.jp/> E-mail info@kanaken.co.jp

大阪営業所: TEL 06-6935-3016代 FAX 06-6935-3017
 新潟営業所: TEL 025-286-0521代 FAX 025-286-8870
 福島営業所: TEL 024-961-7211代 FAX 024-961-7221
 仙台出張所: TEL 022-287-6273代 FAX 022-287-6218
 千葉出張所: TEL 043-286-6466代 FAX 043-286-6366

パルス (低周波治療器)

Lasper-A

ラスパーエース Version-2

進化する波 ラスパーウェーブ

それは、ソフトな当たりでしっかりした刺激を確実に伝える理想の波形です。



設定周波数

微妙な治療の周波数帯を完全カバーした24段階ロータリースイッチ (電子音表示)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
周波数	0.1	0.3	0.5	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5
No	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
周波数	2	2.5	3	5	7	10	15	20	30	50	75	100

*頻繁に使用する周波数を配位しています。*0.1Hzでピーク音ビビ(警告音)を設定しました。

最大出力電圧をアップ

経皮電極用(高)モードは最大42Vp-pから48Vp-pにパワーをアップ。経皮通電の物足りなさを幾分解消させました。

ラスパーウェーブ

チャンネル間の干渉がない。

治療時間を液晶で表示。

電子音で操作を確認。

携帯に便利な軽量設計。

ラスパーエース バージョン2

KE-115 **47,250円** (本体価格 45,000円)

(クラスII/特管) 認証番号219ALBZX00005000

仕様

- 出力チャンネル数 4チャンネル
- 定格電圧 DC7.5V (単2形乾電池×5本)
- 最大出力電圧 48Vp-p
- 最大出力電流 3.4mA (500Ω 負荷時)
- 出力周波数 連続モード 0.1Hz~100Hz
間欠モード 3.0Hz~100Hz
- ミックスモード 3&10Hz、3&15Hz、3&30Hz、3&50Hz
- 治療タイマー 5、10、15、20、25、30分
- 安全装置 ゼロスタート方式、出力レベルインターロック
- 電源ヒューズ 3.15A
- 寸法 H88×W235×D165±5mm
- 重量 570g (電池除く)

本体及び付属品

- 1. 本体 1台
 - 2. 新選電コード4色組 1組
 - 3. 粘着端子 (TRS-2822) 1袋6コ入 2袋
 - 4. 単2形乾電池 5本
 - 5. 取扱説明書 1冊
 - 6. 添付文書 1枚
 - 7. 保証書 1部
 - 8. 保証登録書 1部
- 粘着端子 (TRS-2822) 1袋6コ入 KE-116A **945円** (送料別) (送料別) (送料別)
 新選電コード4色組 KE-116D **6,300円** (送料別) (送料別) (送料別)
 新選電コード1本 KE-116E **1,680円** (送料別) (送料別) (送料別)

細胞に働きかける

BioKanax

マイクロカレント 微弱電流

バイオカナックス

バイオカナックスは、人間が本来持っている自己回復能力を助けることで、静止細胞を活性化し、筋肉を調整、回復、改善させます。

バイオカナックス

KE-525 **892,500円**
(本体価格 850,000円)

プロの要求に応えるプログラム機能搭載

バイオカナックスは生理学的な最新情報にもとづいて、複数の大学医学部を始め、数多くの専門医の研究と協力によって開発された。小型マイクロアンペア治療器です。治療に最適なプログラムと、正確なマイクロアンペアがインプットされており、完璧にコンピュータで制御されています。そのため治療効果が出しやすく、効果も長時間持続します。



仕様

- 定格電圧: DC9V 単一型電池 (1.5V) ×6
 - 消費電流: 40mA、出力電流: 28μA~500μA
 - 出力電圧: 14mV (500Ω 負荷) MAX=35V
 - 出力周波数: 0.1Hz~500Hz、出力系統: 2チャンネル
 - 外形寸法: H132×W320×D250mm
 - 本体重量: 2.3kg
- (クラスII/特管) 医療用具承認番号21200BZZ00333000

●独自の4極干渉通電方式

- 痛みを、筋肉系・神経系に分けて治療します。
- 部位を選べば、プログラム治療ができます。
- ワンタッチ選択方式採用により、治療モードは簡単に選べます。
- ディスプレイで、治療状況を把握することができます。

総発売元 **株式会社 カナケン**

本社: 〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-17-39
TEL_045-901-5471代 FAX_045-902-9262
http://www.e-kenkou.jp/ E-mail info@kanaken.co.jp

大阪営業所 TEL_06-6935-3016代 FAX_06-6935-3017
新潟営業所 TEL_025-286-0521代 FAX_025-286-8870
福島営業所 TEL_024-961-7211代 FAX_024-961-7221
仙台出張所 TEL_022-287-6273代 FAX_022-287-6218
千葉出張所 TEL_043-286-6466代 FAX_043-286-6366

新商品

ダイオード マッサージャー

(補瀉絶縁型・ダイオード入り)

《痛み・こり・筋肉痛など》

【特徴】 ☆コンパクトでシンプルな皮膚刺激療法。

☆東洋医学的気血運行の平衡作用は、極性を有する物質に左右される。特に、微少電流の過負荷に対応するダイオードの特性は、補瀉的調整の導入に欠かせない用具である。

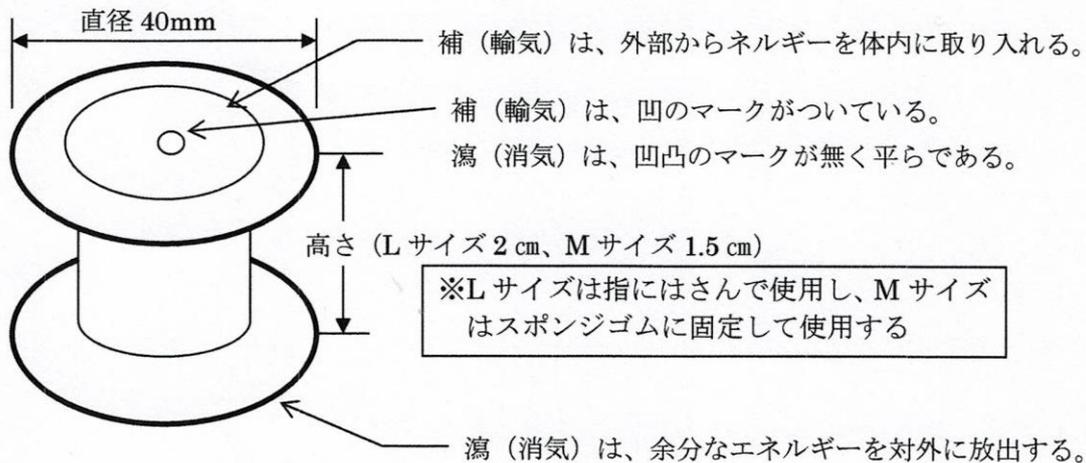
☆マジックベルト等で固定しながら他の治療も併用できる。

☆人差し指と中指に挟んで、ツボ・経絡・リンパに沿って刺激をすることにより、更に効果が得られる。又、1~2日後に効用が出てくることもあります。

《注意》 補瀉を反対にした場合、痛みを起こすこともあります。

〔例〕 瀉（消気）で10~15分固定して痛みが増した時は、補（輸気）側にかえて使用すること。

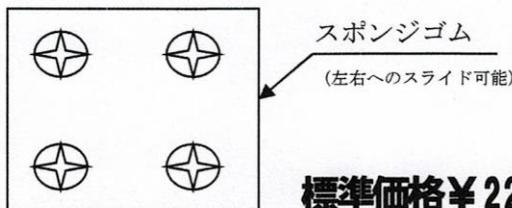
斜面図（実物大）



《注意》 以下に該当する方は使用出来ません。◎金属アレルギー体質の方

◎心臓の弱い方・ペースメーカーを装着している方

◎体内に金属板（ボルト）埋め込みの方



スポンジゴムに 2~6 個
取り付けて患部に固定
して使用できる。

標準価格 ¥22,575
(本体価格 ¥21,500)

【お問い合わせ】 物療器械各種・鍼灸用具一式

〒034-0084 青森県十和田市西四番町 8-39

有限会社 ヤマキン医療器

TEL 0176-25-3666

TEL・FAX 兼 0176-23-9138